

令和2年7月豪雨復旧・復興本部会議（第12回）

日 時：令和5年7月4日（火）10時00分～

場 所：防災センター（201会議室）

次 第

1 開 会

2 黙 祷

3 本 部 長（知 事） 挨 拶

4 議 事

(1) 令和2年7月豪雨からの復旧と創造的復興に向けた取組み… 資料1、資料2

(2) 広域本部・地域振興局からの報告 … 資料3

5 そ の 他

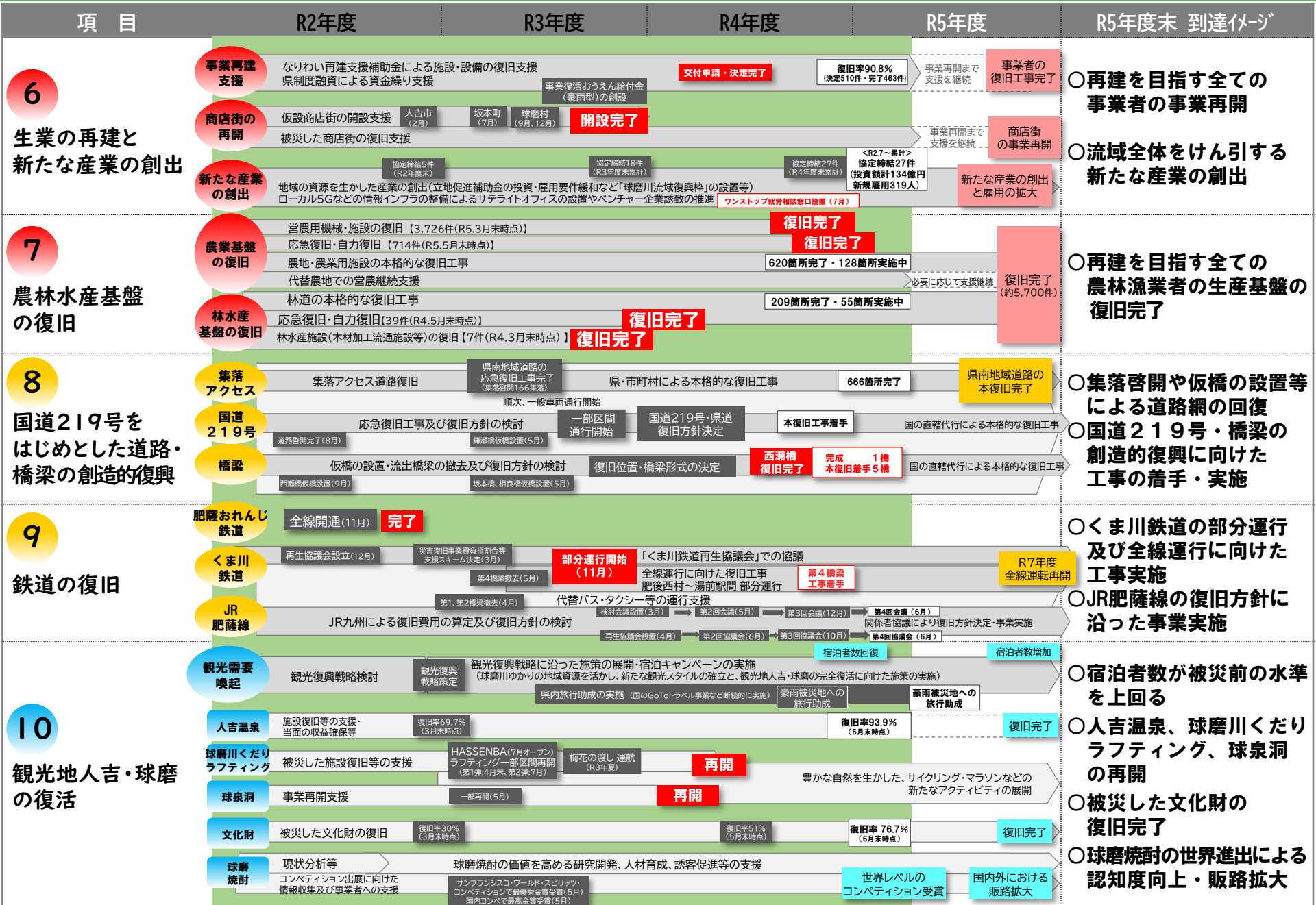
6 閉 会

“緑の流域治水”の推進と復旧・復興に向けた重点10項目 資料1 1

項目	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度末 到達イメージ		
1 堆積土砂の撤去など 河川の緊急対策	堆積土砂	県管理河川の堆積土砂撤去【93万㎡】	撤去完了	流下能力維持・確保のため、必要な土砂撤去の継続的な実施	133万㎡ (R5.6月末累計)	○堆積土砂の撤去完了	
	河道掘削	動植物の生息・生育環境や河川の利活用等に配慮のうえ、最大限の掘削を実施	河川整備計画策定	89万㎡掘削完了 (R5.6末)	継続的な河道掘削を推進	流域治水プロジェクト(R11) 約320万㎡掘削完了	○計画的な河道掘削・河川施設の復旧の実施
	災害復旧	49箇所応急対策完了(8月)	県管理の河川施設の復旧	237箇所完了	県管理9支川権限代行復旧工事完了	394箇所完了	○計画的な河道掘削・河川施設の復旧の実施
	河川情報の充実	河川カメラ・水位計の増設	<R2年度実績> 河川カメラ2基 水位計2基 増設	<R3年度実績> 河川カメラ6基 水位計7基 増設	<R2.7～累計> 河川カメラ26基 水位計15基 増設 (権限代行含む)	更なる増設等の検討	
2 治山・砂防による 山の再生・強化	堆積土砂・流木	砂防堰堤の堆積土砂・流木の撤去【17箇所】	撤去完了	維持管理上、必要な土砂撤去の継続的な実施		○緊急的な治山・砂防施設の復旧・整備完了	
	治山	治山施設の復旧	4箇所完了 (3箇所実施中)	17箇所完了			
	治山	緊急的な治山施設の整備【67箇所】	山地防災パトロールの実施	整備完了	8箇所完了 (11箇所実施中)	30箇所整備 (全箇所完了はR7年度)	
	砂防施設	砂防施設の復旧	緊急的な砂防施設の整備	87箇所完了 (214箇所契約締結)	15箇所完了 (1箇所工事着手)	237箇所完了	
3 “いのち”を守る 防災・減災力の強化	戸別受信機	市町村への設置補助・支援	全世帯設置完了	継続的な避難訓練実施		○全世帯への戸別受信機等の設置とL2ハザードマップの更新・周知	
	ハザードマップ	L2対応ハザードマップへの更新(国管理・県管理水位周知河川)	L2ハザードマップ更新・周知完了	水位周知河川以外の河川のL2対応ハザードマップへ更新		○L2ハザードマップの更新・周知	
	マイタイムライン	マイタイムラインの普及	ガイドブックの県HP掲載 全世帯配布・訓練実施	専用WEBサイト開設 作成支援動画制作	マイタイムラインを活用した防災教育支援や住民参加型訓練の実施	全世帯へのマイタイムライン普及	○マイタイムラインの全世帯への普及
	避難計画	要支援者個別避難計画・要配慮者利用施設の避難確保計画の作成支援	100%作成完了	計画の実効性の更なる向上、地区防災計画の策定推進 新たに地域防災計画に掲載された施設の避難確保計画作成支援や避難訓練研修等の継続実施		○要支援者等の避難計画100%作成	
4 本格的な 住まいの再建	田んぼダム	モデル地区選定・せき板配布	296ha(7市町村)で実証実験実施	457ha(7市町村) 検証結果の評価 人材育成着手	県営モデル事業 着手(約88ha)	○人吉球磨地域への田んぼダム普及・拡大	
	住まいの再建	建設型応急住宅の建設・提供	全808戸建設完了 (12月9日)	指定避難所解消 (12月31日)	応急仮設等入居者数 1,814戸4,217人 (R3.1 ピーク時)	応急仮設等入居者数 537戸 1,128人 (R5.6末) ピーク時の約3割	○被災された方々お一人お一人の意向に沿った住まいの再建・確保の完了
	災害公営住宅	本格的な住まいの再建に向けた強力な支援	意向確認・建設戸数の把握	災害公営住宅の設計・工事等の支援	相良村入居開始(12月) 八代市合志野入居開始(4月)	[完成] 4地区、15戸 [工事中] 8地区、206戸 [設計中] 3地区、62戸 計12地区、283戸	
	災害廃棄物	災害廃棄物処理支援	公費解体完了率99.9% (R4.3月末時点)	被災者への配慮案件の対応を一部継続	処理完了		○災害廃棄物処理完了
5 被災地の まちづくりと集落再生	市町村の復興計画策定支援	復興計画策定 (八代市、人吉市、芦北町、相良村、山江村、球磨村)	まちづくり計画策定支援	復興まちづくり計画策定 (八代市、人吉市、相良村、球磨村)	まちづくりの推進	○甚大な被害を受けた地域のまちづくり・集落再生の実現	
	人吉市まちづくり	住民の意向把握	都市計画決定手続の支援 (国道445号整備、避難路・避難地の整備等)	土地活用整理事業 都市計画の決定(再井地区)	優先買収等 事業着手	測量・用地買収・改良工事 かわまちづくり社会実験	
球磨村坂本町・芦北町集落再生	住民の意向把握・事業計画作成・概略設計	地元説明会・懇談会の開催	集落再生方針決定	住民合意形成	球磨村宅地造成着手(県委託)	緊急治水対策プロジェクト 第一段階で 輪中堤・宅地かさ上げ完了	

※上記の達成率等には、特別な事情により復旧等が困難な場合は含まれません。

“緑の流域治水”の推進と復旧・復興に向けた重点10項目



※上記の達成率等には、特別な事情により復旧等が困難な場合は含まれません。

令和2年7月豪雨からの 復旧と創造的復興に向けた取組み

令和5年(2023年)7月4日

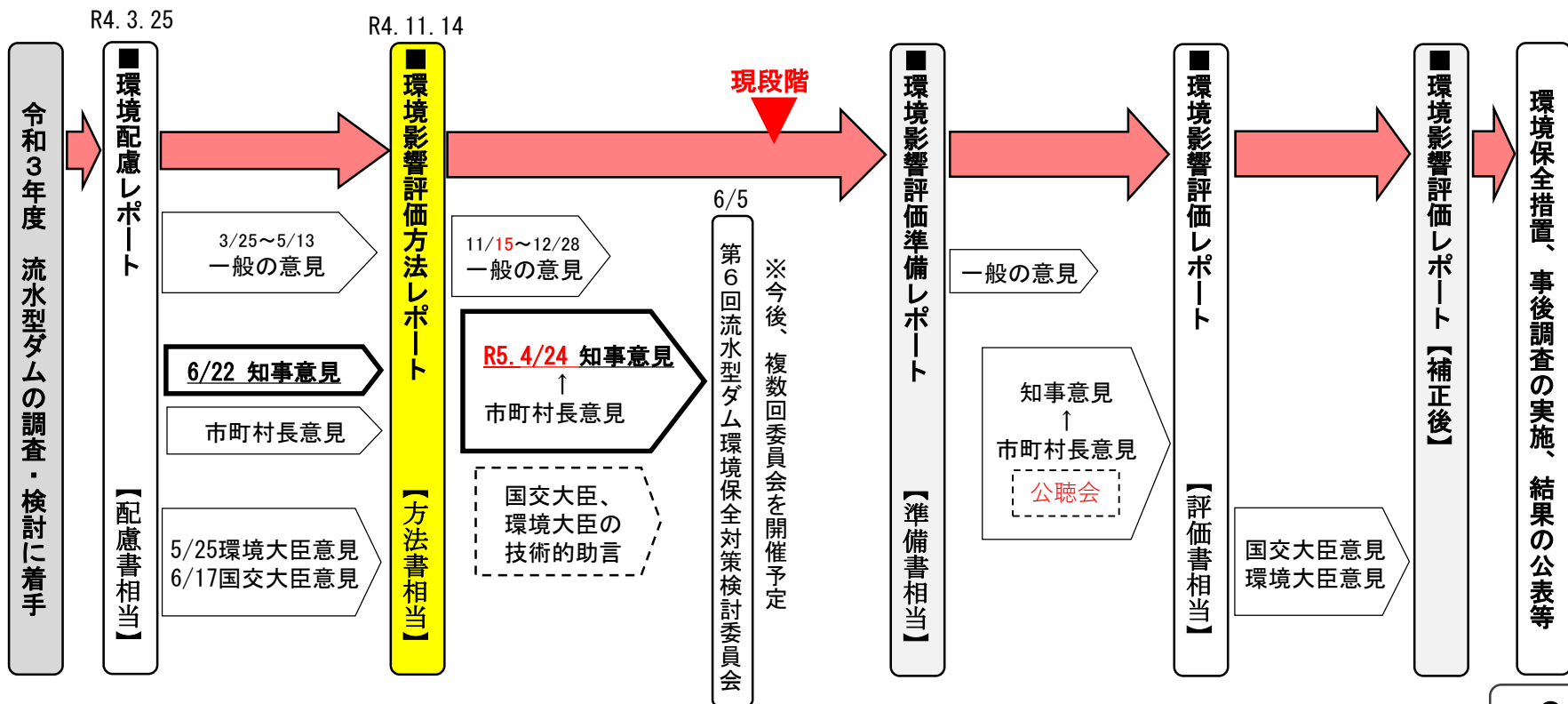
熊 本 県

緑の流域治水

生命・財産を守る安全・安心の最大化と
環境への影響の最小化のベストミックス

流水型ダムを進捗状況（環境アセスメント①）

- 令和4年11月14日付けで、国において、「川辺川の流水型ダムに関する環境影響評価方法レポート」が公表され、県アセス審査会や関係市町村長意見、一般の方々の意見の概要等を踏まえ、4月24日に知事意見を提出。
- 6月5日に、国の「流水型ダム環境保全対策検討委員会」が開催され、流水型ダムの大型水理模型実験を視察されるとともに、ダムの施設の検討状況等について審議。
- 今後、4月24日の知事意見や国の委員会の意見等を踏まえ、国において、調査・予測・評価を行い、その結果等を記載した環境影響評価準備レポートが作成・公表される予定。



方法レポートに対する知事意見の概要（R5.4.24提出）

【全体事項】

- 最新の知見・技術を極限まで取り入れ、安全・安心を最大化するものであるとともに、球磨川・川辺川の環境に極限まで配慮
- 流水型ダムの特徴を最大限生かせるよう構造等を検討
- 土砂や流木の堆積に係る周辺環境への影響について、調査・予測・評価及び環境保全措置の検討

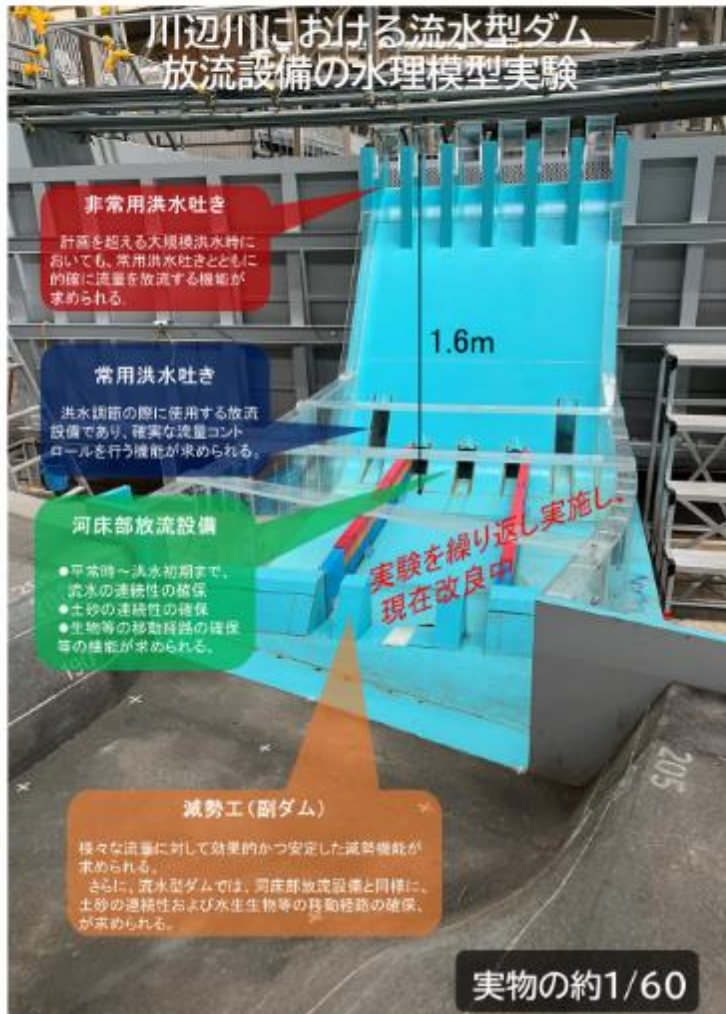
【個別事項】

- 川辺川の水の透明度への影響について、水平透明度の観点で調査
- ダムの存在・供用に伴う生態系の縦断的な連続性への影響に関し、水域・陸域・空域における動物について調査・予測・評価

流水型ダムの進捗状況(ダムの構造等の検討状況)

第7回球磨川流域治水協議
会資料 (R5.6.6開催) より

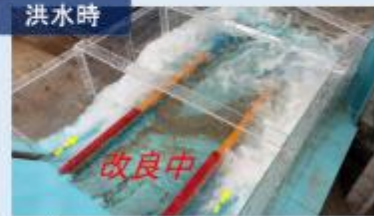
- 『世界から視察に訪れるような流水型ダムを創る』を目標に、現在、最新の技術力を結集させ、ダムの構造(放流設備等)の設計を丁寧かつ大胆に実施しているところ。
- 水理計算などにより概略的な構造検討を実施した上で、様々な改良案について水理模型実験を繰り返し実施し、環境への影響を極限まで抑えた構造案を追求。



例えば、構造の検討例 (検討途中の段階であり最終案でない)

○安全・安心を確保しつつ、平常時において、魚類(アユ)が移動できる環境を構築したい。

洪水時



平常時



平常時に魚類(アユ)が移動する経路を確保できるよう、洪水時と平常時の流れを分離する放流設備の位置や減勢工内の形状を追求

減勢工(副ダム)



魚類(アユ)の移動の障壁とならないよう、移動経路とするスリットの幅や敷高を追求

水理模型実験では

○水の流れ方や土砂の堆積・流送状況などを様々な構造ごとに確認



染料を入れて、
水の流れを確認

堆積土砂の撤去など河川の緊急対策(国管理区間)

重点10項目

- 河道掘削の実施にあたっては、瀬の形成要因となる巨石等や河川景観を形成する巨石・奇岩等について、掘削を行わないように配慮を行った上で河道掘削を実施。
- 支川合流部等に形成されるワンドやたまりなどの良好な動植物の生息・生育環境についても、可能な限り保全を図ったうえで河道掘削を実施。



・令和2年7月豪雨により堆積した土砂量(推定)約125万m³については、令和4年1月末に掘削完了
 ・更に令和5年5月末までに**約89万m³を掘削**(進捗率: 約28%)
 (流域治水プロジェクト: 約89万m³/計画: 約320万m³)

■河川環境(瀬・淵等)、河川景観(巨石、奇岩等)の保全

49k200 H/L=85.78

瀬の形成要因となる岩や巨石は掘削しない

《球磨川中流部の巨石・奇岩》

■河川環境の保全(支川合流部環境の保全)

○: 瀬
○: 淵

礫河原やオギ群落
ワンド・たまりが形成

《多様な環境が形成される支川合流点》

球磨川上流部の支川合流点の環境を保全するため、可能な限りオギ群落、ワンド・たまり等の掘削を回避する。

《オギ群落》

《たまり》

【施工中状況】		【施工前状況】		【施工後状況】	
①	②	①		①	
八代市	球磨村	人吉市		人吉市	
R5.4撮影	R5.4撮影	R4.11撮影		R5.3撮影	

< 発災から3年の取組みと成果・課題 >

◆ 堆積土砂撤去・河道掘削

- ・県管理河川について、令和5年6月末までに **約133万m³を撤去**。(※)
- ・また、市房ダムにおいても、令和5年6月末までに **約47万m³の堆積土砂を撤去**。

(※) 球磨川流域市町村+津奈木町における数量

◆ 河川情報の充実

- ・水位計15基、河川カメラ26基を増設。(※)
- ・夜間でも河川の状況が確認できるよう、河川カメラへの照明設備18基追加。(※)

(※) R2. 7月発災以降の合計、権限代行含む

小田浦川 (芦北町)



湯浦川 (芦北町)



< 今後の展望 (特に令和5年度末の到達イメージ) >

◆ 堆積土砂撤去・河道掘削

- ・引き続き、流域住民の声をお聞きしながら、河川の流下能力の維持・向上やダムの洪水調節容量の確保を図る。

◆ 河川情報の充実

- ・次期出水期までに、新たに河川カメラ**9基を増設**予定している。

万江川 (人吉市)



川辺川 (五木村)



市房ダム (水上村)



被災した河川管理施設の復旧(県管理区間)

重点10項目

<発災から3年の取組みと成果・課題>

- 被災した全394箇所、約177億円(県管理の河川)について、現在、災害復旧事業を実施。
- 県による復旧箇所については、令和5年6月末までに、全394箇所の内、237箇所を工事完了。

<今後の展望(特に令和5年度末の到達イメージ)>

- 1日も早い復旧復興に向け、全394箇所の年度末までの完了を目指す。



宮浦川(芦北町)



川辺川(相良村)



牛繰川(多良木町)

被災した河川管理施設の復旧(権限代行)

重点10項目

＜発災から3年の取組みと成果・課題＞

- ・球磨川中流域圏で特に甚大な被害を受けた県管理の支川9河川について、国の権限代行事業により復旧が進められてきたが、**全ての復旧工事が完了。**

着手から2カ月間に流路確保など緊急的な対応を完了

②川内川



③庄本川



令和3年5月末まで(次の梅雨前)に約20万m³の土砂撤去を完了



権限代行9河川
うち復旧箇所

令和5年5月27日(今回)までに、140箇所の被災した護岸等の復旧を完了 [全体復旧事業費 約57億円]

⑥小川



⑨告川



令和5年5月27日完成式典



球磨川中流域の川内川(球磨村神瀬)における流域治水の推進

- ◆河川区域の対策として、河道掘削や河川護岸の災害復旧により、河道の流下能力を確保する。
- ◆集水域の対策として、氾濫原因のひとつである河道への土砂や流木流入の抑制対策により、再度の河道埋塞の防止を図る。

<発災から3年の取組みと成果・課題>

- ◆河川区域の対策 ・河道掘削・護岸復旧 : 完了
- ◆集水域の対策 ・砂防堰堤 : 2箇所施工中(全6箇所)
- ・治山ダム : 2箇所完了、2箇所設計中(全4箇所)
- ・山腹工 : 1箇所完了、4箇所設計中(全5箇所)

<今後の展望(令和5年度末の到達イメージ)>

- ◆河川区域の対策 ・
- ◆集水域の対策 ・砂防堰堤 : 施工中の2箇所を完了予定
- ・治山ダム : 設計中の2箇所を年度内に工事発注予定
- ・山腹工 : 設計中の4箇所のうち3箇所を年度内に工事発注予定

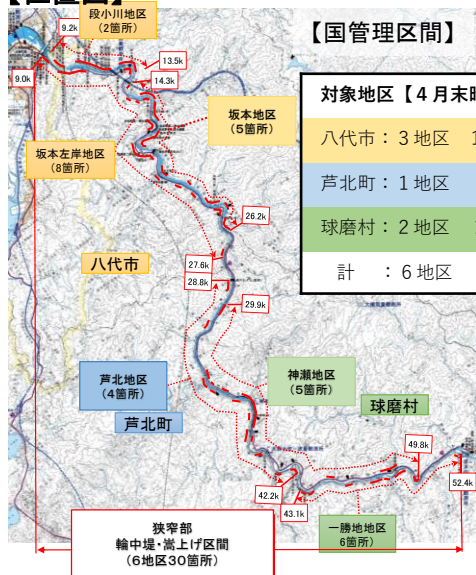
令和5年7月時点 主な実施箇所の進捗状況



輪中堤・宅地かさ上げ【国・県管理区間】の進捗状況

- まちづくり等との連携により自治体の復興計画等との整合を図ったうえで整備高さを決定。
- 対象となる各地区で順次事業説明会を開催すると共に、かさ上げ高さの表示や先行盛土の見学会の開催を通じて、具体的な整備イメージを地域の皆様と共有するなど取り組みを推進。
- 球磨村神瀬地区において、輪中堤・宅地かさ上げ事業における流域内初の着工式を令和5年2月19日に実施。
- その他地区についても、調整が整った地区から工事に着手予定。(令和7年度完了予定)

【位置図】



【国管理区間】

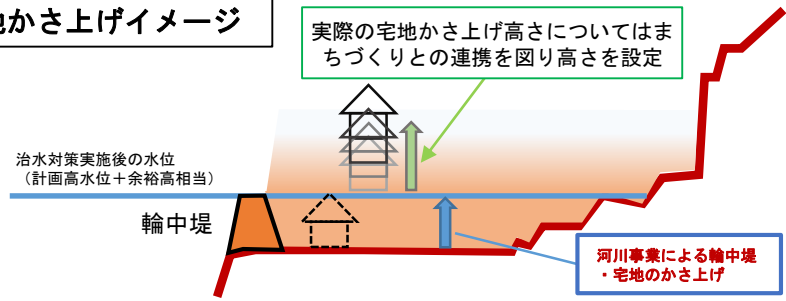
対象地区【4月末時点】

八代市：3地区	15箇所
芦北町：1地区	4箇所
球磨村：2地区	11箇所
計：6地区	30箇所

【県管理区間】

まちづくりと連携した輪中堤・宅地かさ上げイメージ

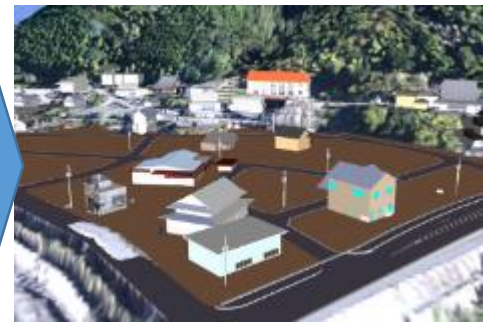
- ・集落全体をかさ上げし、その後家屋やインフラ等含む生活基盤をまちづくり等と連携して再構築を実施する。
- ・河川事業によるかさ上げ高さを上回る分については河川事業とまちづくり等との連携により自治体の復興計画等との整合を図ることとする。



着工式 (R5.2.19)



施工状況 (R5.5.12)



完成イメージ
(3次元データを活用した地元説明)



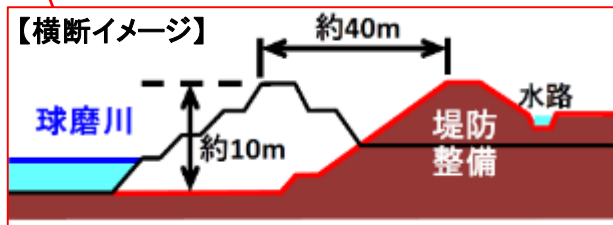
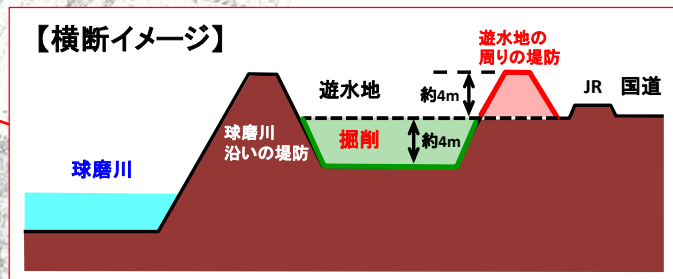
引堤・遊水地【国管理区間】の進捗状況

- 球磨村の引堤・遊水地については、対象家屋の移転先の確保に向け、災害公営住宅や新たな宅地、避難路等の整備を実施しており、令和5年度から引堤・遊水地の工事着手を予定。
- 人吉市内・相良村内の遊水地整備予定箇所については、地元と用地協議等を鋭意進めており、遊水地整備後の利活用についても検討・調整を実施している。

球磨村渡地域（まちづくりと河川事業）のイメージ



復興まちづくり及び引堤・遊水地に関する地元説明会(R5.2.18)【球磨村渡地区】



治山・砂防による山の再生・強化(砂防)

重点10項目

<発災から3年の取組みと成果・課題>

◆堆積土砂・流木の撤去

- ・令和2年7月豪雨後、全17箇所ですべて撤去完了。
※うち1箇所ですべて令和4年台風第14号に伴う土石流を再度捕捉。

◆砂防施設の復旧(237箇所)

- ・令和5年6月末までに、**214箇所を契約**。
87箇所完了。

※未契約23箇所について、
18箇所は令和4年度に入札不調だったため、上半期に再度発注。
5箇所は進入路となる町道が被災したため、町道の復旧完了後に発注。

◆緊急的な砂防施設の整備(17箇所)

- ・令和5年6月末までに、**15箇所完了**。
1箇所は工事着手。
1箇所は入札手続き中。

◆その他砂防施設の整備(23箇所)

(今後の土砂災害を防止するため計画的に砂防施設を整備)

- ・令和5年6月末までに、**9箇所は工事着手**。

○砂防堰堤の堆積土砂・流木の撤去 (西平川砂防堰堤(あさぎり町))

令和2年7月豪雨時の捕捉状況

堆積土砂・流木の撤去後

令和4年9月台風14号時の捕捉状況



<今後の展望(令和5年度末の到達イメージ)>

◆砂防堰堤の堆積土砂・流木の撤去

- ・維持管理上、必要な土砂撤去を継続。

◆砂防施設の復旧

- ・**全237箇所完了**予定。

◆緊急的な砂防施設の整備

- ・**全17箇所完了**予定。

◆その他砂防施設の整備

- ・全23箇所中、**22箇所は工事着手**、
着手した22箇所のうち**13箇所完了**予定。

※1箇所は進入路となる村道が被災し現地に入れられないため、令和6年度に工事着手予定。

○緊急的な砂防施設の整備(大坪川-1砂防堰堤(津奈木町))

令和2年7月豪雨時の土石流発生状況

令和4年10月砂防堰堤竣工(遠景)



砂防堰堤竣工(近景)



渓流内の不安定土砂を
約8,500m³捕捉可能!
人家、町道、公共施設
等の保全に貢献!!

令和2年7月豪雨時に捕捉した土砂・流木の撤去が完了していた砂防堰堤で、台風14号に伴う土石流を再度捕捉し下流域への被害を未然に防止!

万江川流域の土砂・洪水氾濫対策(砂防)

重点10項目

- 令和2年7月豪雨では、万江川流域内で土砂・洪水氾濫(※)が発生した。
- 今後の出水で再び土砂・洪水氾濫が発生する可能性が高く、流域住民の生活や経済に与える影響を抑制するため、土砂・洪水氾濫対策に取り組んでいる。(都道府県として、全国でも初めて『土砂・洪水氾濫対策』に取り組む。)

<発災から3年の取組みと成果・課題>

- ・「万江川土砂・洪水氾濫対策検討委員会」を2度開催し、砂防・河川・治山の3事業が連携した対策等の検討を進めた。
- ・対策施設の一部の詳細設計に着手。

<今後の展望(令和5年度末の到達イメージ)>

- ・委員会の検討内容を踏まえ、砂防えん堤の位置など具体的な土砂・洪水氾濫対策計画を策定する。
- ・対策施設の一部の工事に着手予定。

令和2年7月豪雨時の
万江川土砂・洪水氾濫状況



検討委員会 室内会議
(令和5年2月)



万江川における
土砂・洪水氾濫対策のイメージ

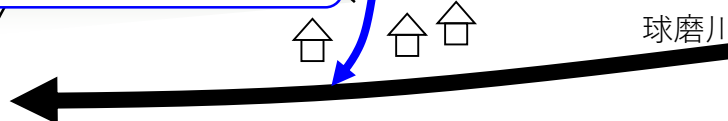
上中流域における土砂・流木の流出対策
(砂防堰堤の設置、貯留施設の設置等)



上流域における土砂・流木の流出対策
(治山ダムの設置、森林整備による流木発生抑制等)



下流域における氾濫対策
(護岸の整備、河川の掘削、貯留施設の設置等)



凡例

- 砂防堰堤
- 河川整備計画策定区間
- 治山ダム
- 人家

※土砂・洪水氾濫とは、豪雨により上流域から流出した土砂が下流の河道に堆積することで、洪水時に河床上昇・河道閉塞が引き起こされ、土砂と泥水の氾濫が発生する現象。

＜発災から3年の取組みと成果＞

- ・土砂・流木の撤去 **17箇所全て完了。**
- ・治山施設の復旧全17箇所中、**4箇所が完了、3箇所で実施中。**
- ・緊急的な治山施設の整備は **67箇所全て完了。**
- ・その他の治山施設の整備全99箇所中、**8箇所が完了、11箇所で実施中。**
- ・令和3年度から出水期前の早期に危険性の高い箇所の山地防災パトロールを実施。令和4年度も **142箇所を点検**し、差し迫った危険性は確認されなかった。
- 併せて、住民に防災情報の周知を行った。

土砂流木の流出を防止する治山ダム



山地防災パトロールと事前防災の周知



＜令和5年度末の到達イメージとその実現にむけた重点取組＞

- ・治山施設の復旧 **10箇所**、その他の治山施設の整備 **99箇所**中、新たに **36箇所**で着手予定。
- ・令和4年度から、「**球磨南部地区**」及び「**五木地区**」において流域保全総合治山事業により、総合的に森林域からの土砂流出抑止対策に取り組んでいる。また、「**五家荘地区**」での令和6年度事業採択に向け、令和5年度に全体計画調査を実施する。
- 流域保全総合治山事業（一地区当たり）
 事業期間：5年間（全体事業費約10億円）
 事業内容：流木捕捉式治山ダム工、治山ダム工、山腹工、森林整備（筋工、柵工）



＜発災から3年の取組みと成果＞

- ・球磨川流域7市町村の水田約457haで取組みを実施。(R3:296ha⇒R4:457ha)
- ・有識者による検証委員会を設置し、水田の貯留効果による流出量のピークカット、農作物への影響等について評価を実施。
- ・人吉・球磨地域をはじめ、県内全域での田んぼダムの普及・拡大を推進するため、各地域の取組みをけん引する田んぼダムマイスターの育成に着手。

＜令和5年度末の到達イメージとその実現にむけた重点取組＞

- ・田んぼダムの取組みをリードする人材の育成等により、人吉・球磨地域のみならず、各地域での草の根的な展開を図る。
- ・広報活動等により、下流域の住民をはじめ、県民の理解促進に取り組んでいく。

県内全域での普及・拡大の推進を図る。

(球磨川流域での目標面積:540ha)

効果の検証及び人材の育成

- ・検証委員会から、県に対し実証実験の成果と今後の田んぼダムの進め方などを盛り込んだ提言書を提示。
- ・県内の多面的機能支払活動組織、土地改良区等を対象に研修会を開催し、田んぼダムマイスターを育成。

委員会から県へ提言書の提示



マイスター研修会



県営モデル事業の実施

- ・国庫補助事業を活用した排水柵の入替工事や推進活動を、県がモデル的に7市町村の約88haで実施予定。
- ・県営モデル事業にて事業実施のノウハウを蓄積して、R6以降は団体営事業による取組みを推進。

排水柵整備イメージ



推進活動イメージ(せき板配布)



雨水貯留・浸透施設(雨庭等)の整備

◆雨水貯留施設(雨庭)の整備状況

- 令和3年11月から、「『流域治水を核とした復興を起点とする持続社会』地域共創拠点」の取組みがスタートし、雨庭のモデル整備による効果検証・普及拡大に向けた取組みを推進。既に県内に数箇所に雨庭をモデル的に整備。
- モデル的に整備を行った雨庭について、熊本県立大学を中心に、今後の降雨イベントにおける雨庭への流入量・流出量等の計測、効果検証等を予定。
- 令和5年度は、雨庭の普及拡大に向けて以下の取組みを予定。
 - ・県有施設で雨庭を整備予定。(予算8,000千円)⇒研究における効果検証フィールドとして活用。
 - ・県交付金における市町村への雨庭整備に対する支援のメニュー化。



県立南陵高校の雨庭(R4.10整備)



球磨地域振興局の雨庭(R5.3整備)



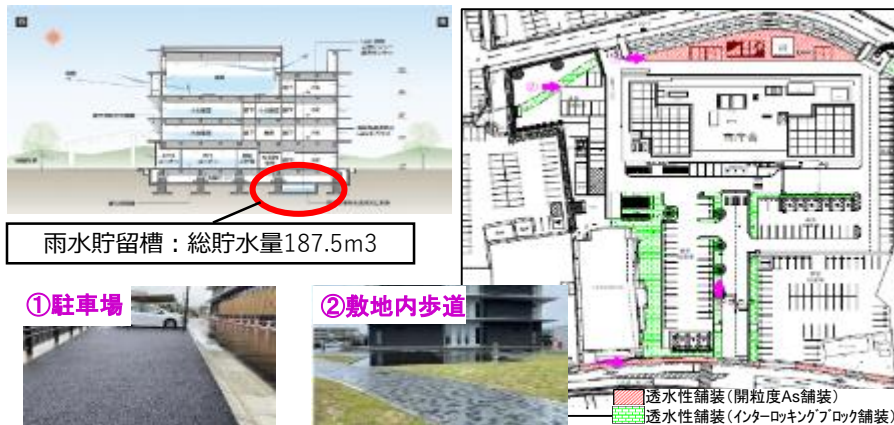
肥後銀行免田支店の雨庭(R5.4整備)



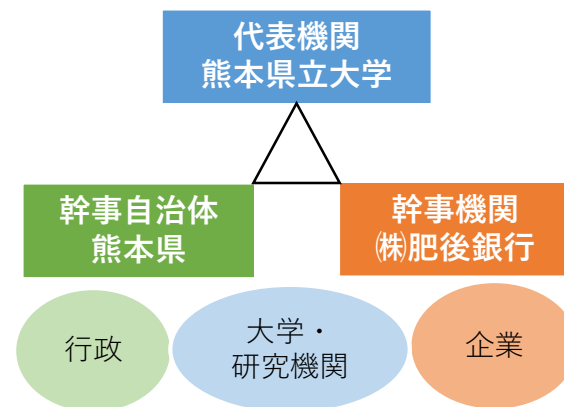
くまもと雨庭パートナーシップ(R5.5設立)

◆雨水浸透施設の整備状況

- 人吉市庁舎に雨水貯留槽を設置、敷地及び周辺道路に透水性舗装を施工。
- 県管理道路(歩道部)の透水性舗装について、令和5年度は4箇所実施予定。(令和4年度は、4箇所実施)



【拠点(研究プロジェクト)の体制】



産・学・官が連携して取組みを推進

球磨川水系河川整備計画に基づく復興に向けた取組

河道整備や宅地かさ上げの着実な推進

< 発災から3年の取組みと成果・課題 >

【河道整備】

- ・御溝川について、二次放水路の整備を推進。
- ・川辺川(相良村)や田頭川(あさぎり町)において、事業化に向けた地元説明会を開催。
- ・人吉市の中心部を流れる山田川については、土地区画整理事業と連携した堤防強化のほか、まちづくり協議会で平時の利活用を検討し、小段形状などの整備内容を具体化。

【宅地かさ上げ】

- ・宅地かさ上げは、油谷川や芋川等の対象となる各地区で順次説明会を開催すると共に、かさ上げ高さの表示を行い、具体的な整備イメージを地域の皆様と共有するなど取組みを推進。

< 今後の展望(特に令和5年度末の到達イメージ) >

【河道整備】

- ・御溝川について、令和5年度末までに二次放水路の整備を完了予定。
- ・川辺川・田頭川・山田川において、用地取得に着手するとともに、その他県管理支川の早期事業化に向け、関係者調整や地元説明会を実施。

【宅地かさ上げ】

- ・宅地かさ上げは、詳細設計・建物調査等を順次行い、整備を推進。

【河道整備】



御溝川 二次放水路整備状況

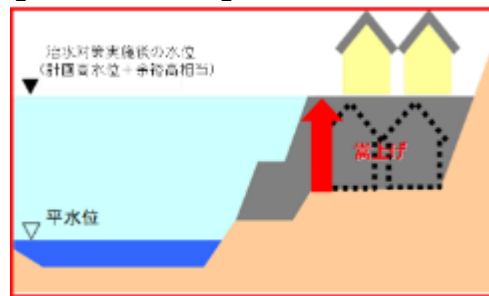


山田川 まちづくり協議会(R4.10.11)



川辺川(相良村)
河川改修説明会(R5.5.24)

【宅地かさ上げ】



宅地かさ上げ イメージ図



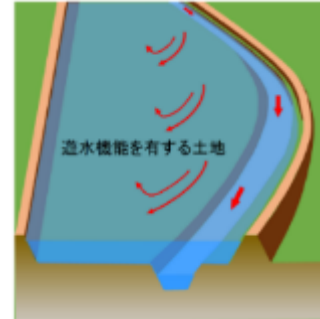
宅地かさ上げ
現地説明(R4.12.8)

球磨川水系河川整備計画に基づく復興に向けた取組

グリーンインフラとしても活用できる遊水機能を有する土地の確保・保全

< 発災から3年の取組みと成果・課題 >

- ・洪水を一時的に貯留してゆっくり流す“遊水機能を有する土地の確保・保全”の取組について、川辺川(相良村)で現地測量等に着手。



遊水機能を有する土地
イメージ



川辺川(相良村)
遊水機能を有する土地説明会(R5.5.22)

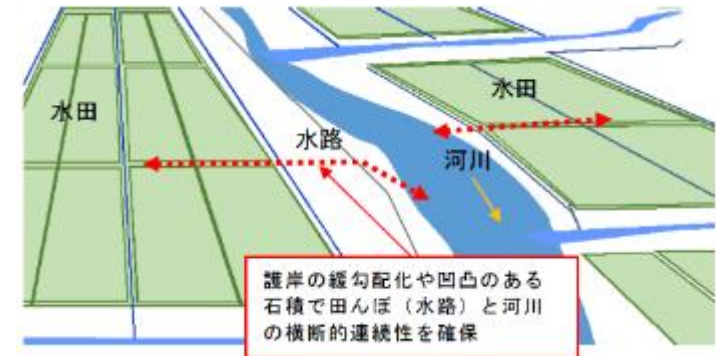
< 今後の展望(特に令和5年度末の到達イメージ) >

- ・川辺川(相良村)において、用地買収に向けた地元説明会を開催し、秋頃から用地取得に着手予定。
- ・新たに、井口川(あさぎり町)の旧河道を活用した遊水機能を有する土地の確保に向けた測量等に着手予定。

河川と水路の連続性の確保による緑の流域治水の実践

< 発災から3年の取組みと成果・課題 >

- ・河川とそこに流れ込む水路の横断的な連続性を確保し、生物の生活環境の回復を図る「いきものバリアフリーチャレンジ」を始動。
- ・免田川をモデル河川として選定。



河川の横断方向の連続性の概要図

出典: 球磨川水系河川整備計画 [県管理区間]

生息生物(免田川)



水路部(免田川)



日本イシガメ



ヌマガエル

< 今後の展望(特に令和5年度末の到達イメージ) >

- ・モデル河川として選定した免田川において、環境調査を地元小学生(あさぎり町・上小学校予定)等と共同して取り組むなど、地域とコミュニケーションを図りながら、高低差を解消するための対策を実施する予定。

球磨川水系河川整備計画に基づく復興に向けた取組

水害リスク情報の充実

< 発災から3年の取組みと成果・課題 >

- ・洪水浸水想定区域図を作成・公表し、そのうえで新たに水防法に基づく指定を実施。
- ・区域図を県ホームページ「防災情報くまもと」に掲載し、検索したい地点の浸水状況をポップアップ表示するなど、水害リスク情報をより分かりやすく提供。

市房ダムに係る情報発信の強化

< 発災から3年の取組みと成果 >

【SNS等による情報発信】

- ・住民への情報発信を強化するため、県統合型防災情報システムに新たな表示項目の追加、防災情報メールサービスやSNS（Yahoo防災、Twitter等）を活用して、県から直接住民へ発信する運用を令和5年6月1日から開始。

【新たなダム情報発信】

- ・住民の円滑な避難を支援することを目的に、異常洪水時防災操作（緊急放流）の予告よりも早い段階で、「貯留能力の半分情報」を発信する運用を令和4年6月1日から開始。
- ・令和4年9月の台風第14号の際は、緊急放流開始（9/19 3:00）の約7時間20分前（9/18 19:40）に情報を発信。

【河川沿川住民への情報発信】

- ・令和2年7月豪雨を踏まえて、試行的に運用していたダムの操作状況に応じた4色表示の警告灯について、本格的な運用を令和5年度から開始。

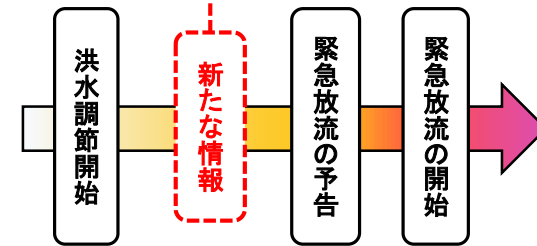


防災情報くまもと 操作画面



県統合型防災情報システム

貯留能力の半分情報



市房ダムから発信する情報

球磨川水系河川整備計画に基づく復興に向けた取組

住民の円滑な避難の支援

<発災から3年の取組みと成果・課題>

- ・市房ダムの役割や操作に関するパンフレットや動画、ダム模型を活用して、河川周辺住民などへの現地説明会を開催。
- ・球磨村やあさぎり町で開催された「防災学習」の場では、市房ダムのブースを設けて住民に説明するとともに、人吉市役所やあさぎり町の全職員を対象に、市房ダムから発信する情報等に関する説明会を開催。
- ・引き続き、ダムに関する理解を深めるため、他の市町村職員や住民への説明を行っていく予定。



市房ダム パンフレット



現地説明会の状況 (R5.4.20)



球磨村防災学習 (R3.12.5)



人吉市職員への説明状況 (R4.11.21)

水防災意識の醸成

<発災から3年の取組みと成果・課題>

- ・令和5年1月21日にNPO法人と国・県・八代市が連携してイベントを行い、防災に関するパネルや浸水想定区域図などを用いて、地元の小学生や自主防災組織の方へ直接、水防災の重要性や必要性を周知。



水防災フェスタ 熊本県ブース説明状況 (R5.1.21)

< 発災から3年の取組みと成果 >

マイタイムラインの普及

- ・作成ガイド全世帯配布 (R3.5)
- ・専用WEBサイトを開設し、ガイド公開 (R3.9)
- ・作成支援動画ユーチューブ配信 (R4.10)
- ・県内全中学生へ作成ガイドブックを配布 (R3.11)。以降、毎年度1年生に配布



専用WEBサイト



作成支援動画

地域防災リーダーの養成

- ・「地域防災リーダー」を養成する「火の国ぼうさい塾」を人吉市で開催 (約70名が受講)



火の国ぼうさい塾
(R5.2 人吉市)

地区防災計画の作成推進

- ・市町村の地区防災計画作成を支援
- ・6町村では全地区で計画作成 (流域市町村作成率: 約37%)



地区防災計画策定研修
(R4.9 湯前町)

住民避難訓練の実施

- ・「マイタイムライン」を活用した住民参加型避難訓練を実施 (7市町村(人吉市、錦町、多良木町、湯前町、球磨村、あさぎり町、芦北町)で実施)



住民参加型避難訓練
(R4.5 球磨村)

< 今後の展望 >

マイタイムラインの普及

- ・「マイタイムラインを活用した防災教育教材・マニュアル」を活用し、学校等と連携して、防災教育モデル授業を継続的に実施
- ・圏域ごとに実施する教職員防災主任研修等において、**各学校でのマイタイムライン作成を要請**
- ・テレビやラジオ、県からのたより等、県政広報媒体等での作成の呼びかけを継続的に実施
 - 市町村と連携し、ハザードマップ上の浸水想定区域等を優先対象とし、先行して普及推進

地域防災リーダーの養成

- ・令和5年度は、八代市で火の国ぼうさい塾を開催予定

地区防災計画の作成推進

- ・流域市町村の地区防災計画作成を支援
 - **流域の全市町村で作成率50%以上**を目指す

住民避難訓練の実施

- ・住民参加避難訓練の実施を支援
 - **流域の全市町村で住民参加型の避難訓練を実施**する。

＜発災から3年の取組みと成果＞

豪雨対応訓練の実施

- ・県・市町村防災担当職員の初動対応力の向上と、関係機関（警察・消防・自衛隊等）との連携強化のため、令和2年7月豪雨規模の災害を想定したブラインド型の図上訓練を実施（令和3年1月から計25回）
 - 流域市町村を含む県内全市町村が参加し、防災・人材の育成・体制強化を推進（令和5年実施分で3巡目）
- ・また、県・市町村幹部職員の司令塔機能の強化のため、広域本部長・地域振興局長向け研修（R5.4）、市町村防災担当幹部職員向け研修（R5.5）をそれぞれ開催。

防災学習

- ・学校等と連携し、子どもから家庭への防災意識の浸透を図るために、**防災教育モデル授業を実施**（令和4年度：小学校から高等学校まで県内20校で実施）
- ・防災教育教材及び指導の手引きを制作し、各学校に周知



防災教育モデル授業の様子

リアルハザードマップの設置推進

- ・流域の全市町村において想定浸水深や避難場所等の標識を設置（全76か所）
- ・整備を促進するため、優良事例やノウハウ等をまとめ、市町村へ周知

＜今後の展望＞

豪雨対応訓練の実施

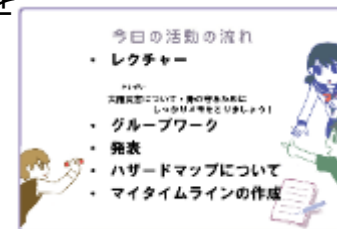
- ・令和5年の梅雨期に向けた訓練については、**全市町村を対象に全7回の実施を終了**
- ・各市町村に警察・消防・自衛隊の各LOが参画し、各広域本部・地域振興局からもLOを派遣する等、より実践的な訓練による地域防災力の強化を図っている



新防災センターでの豪雨対応訓練の様子

防災学習

- ・学校教諭や講師等が自ら防災教育を実施できるよう支援を継続
- ・**防災センター展示・学習室を活用した防災学習の展開**
- ・**展示・学習室等での子ども向け防災イベントの実施**（夏休み防災教室、防災の日イベント等）



防災教育教材

リアルハザードマップの設置推進

- ・引き続き、市町村及び自主防災組織による整備を促進
 - 住民が居住地区の災害リスクを実感することで、平時の各個人の災害への備えや地区防災活動の積極化を促す



リアルハザードマップ（あさぎり町）

“いのち”を守る防災・減災力の強化

重点10項目

危機感共有と命を守る災害報道連携会議

○令和2年7月豪雨で大きな被害を受けた球磨川流域を中心とした県南地域で、発災前から危機感を高め地域住民の命を守るために、国と県が事務局となり、各市町村、防災関係機関、報道機関が防災情報の共有により防災・減災力を強化することを目的とした会議。

〈災害報道連携会議の取組みと成果〉

- 本会議で発案された在熊TV5局制作の**早期避難を呼びかけるテレビスポット**を、令和4年5月2日から9月30日まで放送。
- 今年度も**5月29日から9月30日**までテレビ・ラジオ・各局のウェブサイトで放送予定。



早期避難を呼びかけるテレビスポット

- 台風14号**など、被害が予想される気象イベント前には**複数回臨時ワーキングを開催**。最新の情報の共有を図り、自治体においては**避難所開設や早期の避難情報発信を実施**。また、報道機関においては情報共有により、**早期の報道体制の整備**(L字放送の入力準備等)に役立ち、速報情報など**早期の発信**につながった。



(早期の発信)熊日新聞電子版 速報記事

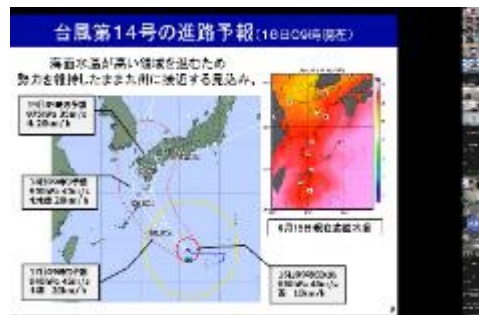


(早期の発信)SNS速報記事

- 令和5年度**は**随時通常ワーキング**を行い、**出水期に向けた最新の気象・防災情報の共有**を参画機関と行っている。



臨時ワーキングの開催状況(オンライン)



臨時ワーキングでの気象台からの情報提供



臨時ワーキングでの専門家による分かりやすい解説



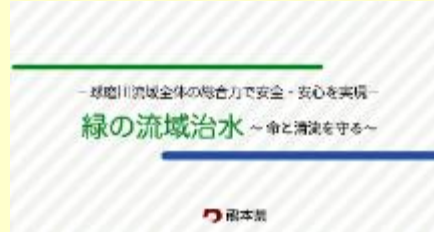
L字TV放送の実施

流域治水プロジェクト【ソフト対策の取組状況】

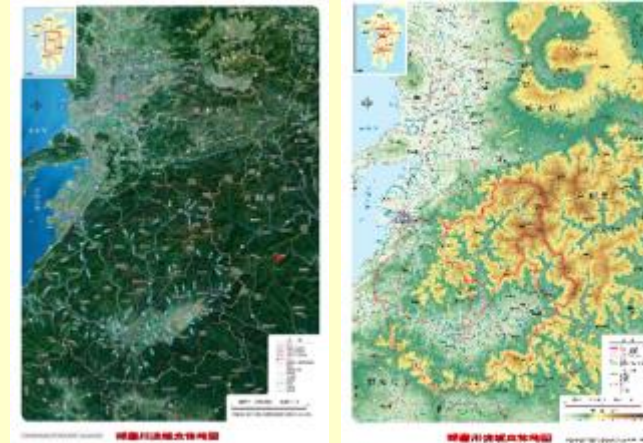
～「緑の流域治水」の取組み等の見える化～ (1/2)

○「緑の流域治水」について、球磨川流域住民をはじめ広く県民に情報を発信するための見える化の取組みとして、本年3月、球磨川流域の地形や河川の特徴、「緑の流域治水」の取組み内容を分かりやすく伝える動画、立体地図、パネル、パンフレットを制作。

動画



立体地図



パネル



地形の特徴



パンフレット

洪水発生メカニズム



流域治水プロジェクト【ソフト対策の取組状況】

～「緑の流域治水」の取組み等の見える化～ (2/2)

- 県民の「緑の流域治水」に対する理解や防災意識の向上を図るため、以下をはじめとした取組みを実施。
 - ・作成した動画のYouTubeでの配信
 - ・県教育委員会と連携し、県内全域の小・中・高等学校の防災主任(教職員)への説明。また、県内の小・中・高等学校に対して、動画の視聴やアンケートへの回答を依頼。
 - ・さらに、球磨川流域においては、周知活動として、防災会議や出前授業を通じて、防災関係者や児童・生徒・教職員等へ直接説明を実施している。 ※5月末現在の県内の説明実績（計26回、延べ1,780名）
- 今後、全ての流域市町村において、小・中・高校での出前授業を実施するなど、様々な機会を捉えて、「緑の流域治水」の取組みの更なる情報発信を行っていく。



市町村の防災関係者への説明（人吉市防災会議）



球磨中央高等学校での出前授業

県内小・中・高等学校のアンケート結果より

Q. 動画を見ての感想 ※アンケート結果は5月末現在の集計分。アンケートは引き続き実施。

- ・災害に備え 自分にできることを考えるきっかけになった（小学生）
- ・球磨川流域で 沢山の治水の取組みをしていることを学んだ（中学生）
- ・球磨川流域の 地形を学び洪水や氾濫の仕組みを理解した（高校生）
- ・動画の視聴後、生徒から7月豪雨の体験を踏まえた話がある等 災害に対するアンテナの高まりを感じた（教職員）

⇒「緑の流域治水」に対する **理解や興味関心、防災意識の向上に寄与**

You Tube掲載動画のQRコード

全体統合版



【6分57秒】

分割版（全体統合版を3パートに分割）

①球磨川の地形の特徴



【2分2秒】

②洪水発生のメカニズム



【2分27秒】

③緑の流域治水の取組み



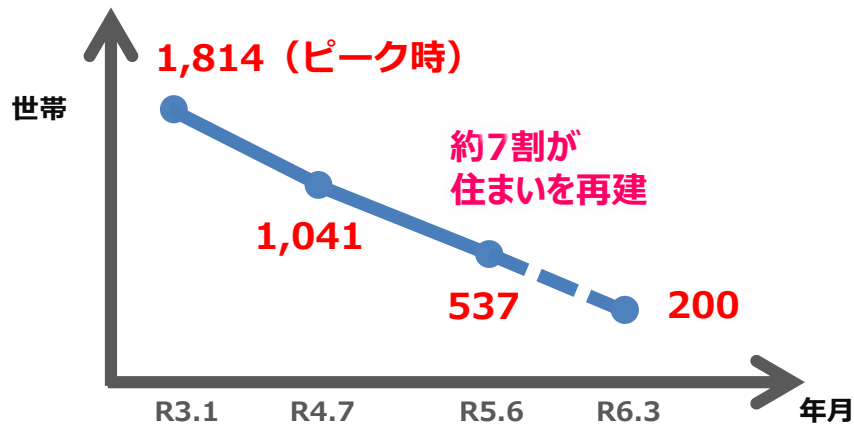
【2分28秒】

すまい・コミュニティ
の創造

< 発災から3年の取組みと成果 >

- ・ 仮設住宅の入居者は、令和5年6月末時点で**537世帯（1,128人）**。
令和3年1月末のピーク時から約7割が住まいの再建を実現。
- ・ 被災者一人一人の意向に寄り添ったきめ細かな住まいの再建支援。
- ・ 再建の目処が立っていない世帯に対しては、福祉関係機関と共に個別ケース会議を実施。課題解決のため伴走型による重点支援。

仮設住宅入居世帯



< 今後の展望（令和5年度末の到達イメージ） >

- ・ 災害公営住宅の約8割が順次完成することや、木造仮設住宅を住まいの再建先として活用することにより、多くの被災者が住まいの再建を実現。
- ・ **令和6年3月には、仮設住宅入居世帯の約9割が住まいの再建を実現する見込み。**

残る約1割（約200世帯）も、再建の目処が立ち、順次、住まいの再建が実現される見込み。
- ・ **災害公営住宅等入居後も必要な見守り・支援を継続**するとともに、住民主体の**コミュニティ形成を支援。**

【地域支え合いセンター、関係機関による支援】



本格的な住まいの再建(災害公営住宅等)

重点10項目

< 発災から3年の取組みと成果・課題 >

・災害査定、発注・設計・工事での支援を行い、発災から3年となる令和5年7月までに、**全ての災害公営住宅等(5市町村12地区283戸)**で事業に着手し、**3市村4地区15戸**で工事が完了した。

完成(4地区15戸)

市町村	地区	戸数	入居時期
相良村	西原	2戸	令和4年12月
八代市	合志野 中津道	4戸 1戸	令和5年4月 令和5年7月
球磨村	一勝地	8戸	令和5年7月

工事中(5地区206戸)

市町村	地区	戸数	入居時期
八代市	藤本・大門	5戸	令和5年10月
人吉市	相良町	120戸	令和6年1月
芦北町	佐敷 湯浦	9戸 12戸	令和5年9月 令和5年10月
球磨村	渡	60戸	令和5年9月

設計中(3地区62戸)

市町村	地区	戸数	入居時期
人吉市	東校区	45戸	令和6年夏頃
球磨村	神瀬	7戸	令和5年度中
八代市	坂本町松崎	10戸	令和7年度中

< 今後の展望(特に令和5年度末の到達イメージ) >

・全体283戸のうち、八代市坂本町松崎地区、人吉市東校区地区を除く**10地区228戸の災害公営住宅等について、R5年度末までの完成・入居**を目指す。
 ・市町村支援(設計・工事内容の協議・提案、補助金申請指導等)を引き続き実施。



人吉市の復興まちづくりに向けた取組み

重点10項目

- **中心市街地地区** 土地区画整理事業の認可(R5.3.7)を受け、R10年度完了に向けて、復興まちづくり推進協議会との協議や、山田川整備と連携しながら推進。
- **青井地区** 土地区画整理事業の認可(R5.2.7)を受け、R10年度完了に向けて、復興まちづくり推進協議会と協議しながら推進。
- **災害公営住宅の整備** R6.1月入居に向けて、相良町に建設中。また、東校区内での整備に向けて、事業者を選定。
- **中川原公園の復旧** 地盤下げ工事を開始し、R5.3月に完了。災害復旧工事は、R5年度施工予定。
- **紺屋小町のオープン** 民間事業者が主体となって飲食店街を整備(R4.12月)し、中心市街地における賑わいを創出。
- **避難路の整備** 重要整備路線の測量設計に着手。一部路線は令和6年度から工事着手し、円滑な避難環境の早期整備を図る。

●災害公営住宅の整備（相良町）



西瀬橋の復旧完了

災害公営住宅の整備

中川原公園の復旧

人吉城跡の復旧

紺屋小町
(7店舗のうち5店舗の入居が決定)

くま川鉄道
(第四橋梁の復旧工事を開始)

被災市街地復興推進地域



土地区画整理事業区域



●青井地区



●中川原公園の復旧



●中心市街地地区



FUN! くま川・ひとよし(人吉かわまちづくり社会実験) 重点10項目

第7回球磨川流域治水協議会資料 (R5.6.6開催) より

日時：2023.5.13(土) 11:00-19:00
 会場：中川原公園～人吉市街地
 主催：球磨川・人吉地区かわまちづくり社会実験実行委員会
 球磨川・人吉地区かわまちづくり協議会
 球磨川・人吉地区かわまちづくり実行委員会

「かわまちづくり」とは

地域が持つ「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、地域活性化や観光振興などを目的に、市町村や民間事業者、地域住民等と河川管理者が各々の取組みを連携することにより「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間を形成し、河川空間を活かして地域の賑わい創出を目指す取組です。



▲まちなかエリア



▲国交省ブース



▲休憩エリア



▲水上アクティビティ



▲チラシ



▲焼酎フェス



▲ライトアップ

球磨村の集落再生に向けた取り組み

重点10項目

- 被災者の早期の住まい再建等に向け、山口居住エリアの宅地造成及び避難路整備について、令和5年度中の一部供用開始を目指し、県が受託施行中。
- 災害公営住宅について、一勝地(8戸)は令和5年6月末に完成、渡(60戸)は令和5年9月の入居に向け整備中。
- 渡小学校、千寿園の跡地については、球磨村が令和2年7月豪雨の犠牲者を追悼する慰霊公園等の整備を検討中。

R5.6末 完成の災害公営住宅 (一勝地地区)

整備中の災害公営住宅 (渡地区)

渡小跡地周辺の村有地活用
村民が集まれる場として再整備 (慰霊公園、遊具広場等)

避難路 (地区内道路の拡幅、離合場所の設置)

引堤(茶屋・舟戸)

渡駅及び周辺の村有地活用
地域の活動支援の場等

地域防災拠点として活用

渡地域 災害公営住宅
運動公園遊具エリア
R5年9月入居開始予定

渡地域 村有住宅
運動公園芝生エリア
木造仮設住宅の転用

千寿園の再建

宅地分譲 一王子団地
R4年度供用開始

みんなの家 (山口公民館)

農業振興エリア
宮前希望者の支援

避難路 (総合運動公園～塚ノ丸団地)

避難路 (現道の拡幅)

遊水地公園の整備
スポーツ鑑賞の場として整備 (野球場、グランドゴルフ等)

遊水地 (地下・今村・山口)

命を守る道路ネットワークの整備 (県道 人吉水俣線)

みんなの家 (渡地区) のイメージ ※5/27着工

渡地区の復興まちづくりイメージ

渡地区で実施予定の事業

【くらし】	災害公営住宅	・総合運動公園遊具エリア (R5年9月入居開始予定)
	村有住宅	・総合運動公園芝生エリア・総合グラウンド一部 (R5年度中供用開始予定)
	宅地整備・分譲	・宅地整備【塚ノ丸団地】 (R5年度中供用開始予定) ・宅地分譲【一王子団地】 (R4年度供用開始)
【そなえ】	流域治水の推進	・遊水地 (山口・地下・今村) ・引堤 (茶屋・舟戸)
	防災拠点	・総合運動公園敷地内 ・村道内布線 ～ 塚ノ丸団地 ～ 総合運動公園
	避難路	・峯、鳥田地区 (拠点間を結ぶ避難路、避難歩道) ・小川地区 (地区内道路)

- 八代市では、令和2年7月豪雨災害により被災した「道の駅坂本」の再整備に関する方針を令和5年4月27日に決定。
- 今後、既存施設の解体や敷地造成を進めるとともに、再整備する施設や配置計画に関する検討を実施し、令和9年7月の供用開始を目指す。

「道の駅坂本」の再整備に関する敷地造成方針(イメージ)



現在の「さかもと復興商店街」の様子

- **山江村**では、令和2年7月豪雨の万江川氾濫により城内地区の村営住宅が被災。村は、安全・安心なすまい確保のため、中鶴地区に村営住宅を移転復旧することとし、**本年3月に4棟8戸が落成**。
- **相良村**では、被災者の安全安心な居住地の確保と移住定住促進のために、水害リスクの低い柳瀬の並木野地区に**宅地分譲地を新たに整備**し、本年6月下旬から分譲開始。

山江村



<村営住宅 中鶴団地>

<中鶴団地 落成式>

相良村



<並木野地区の分譲地>



<宅地造成工事竣工式>

なりわい(生業)・
産業の再生と創出

＜発災から3年の取組みと成果＞

事業再建支援

(1) なりわい再建支援補助金による復旧支援

交付決定事業者のうち、9割を超える事業者の復旧が完了

補助金の
交付決定
510件



復旧完了
463件
(90.8%)

※交付決定後の取消9件を除く

※令和5年5月31日時点



人吉温泉「鍋屋」の復旧



復旧が進む全開連※及びゼンカイミート(株)
※全国開拓農業協同組合連合会

(2) 県南の醸造食品関連企業に対する支援

・製品の味や香りに影響する蔵付き微生物を被災蔵元から収集・分離・保管し、優良菌株を選抜

➔ 新商品開発に向けた支援を実施

(味噌・醤油の試験醸造、焼酎の香り成分の分析等)

・被災後からの衛生環境復旧支援により一部製品が製造再開

➔ 県や全国の味噌・醤油の鑑評会等で上位入賞



醸造醤油の仕込み再開
釜田醸造所(人吉市)



全国醤油品評会 優秀賞受賞
釜田醸造所(人吉市)

商店街の事業再開

(3) 被災した商店街の復旧支援

・仮設商店街5箇所の開設、被災商店街の復旧を支援

・まちなかのにぎわい回復に向けたイベント開催を支援



モソカタウンひとよし駅前



球磨村一勝地地区



人吉復興応援大感謝祭



< 発災から3年の取組みと成果 >

新たな産業の創出等

投資額計134億円
新規雇用319人

(令和2年7月豪雨以降令和5年5月20日までの実績)

(4) 事業所の立地やオフィスの設置による産業創出

- ・サテライトオフィスの設置等による産業の創出 **18件(R5. 5. 20時点)**
- ・企業立地促進補助金「球磨川流域復興枠」の立地協定及び適用事業所の認定 **9件(R5. 5. 20時点)**

効果



(株) AOI Pro.との協定 (八代市)



(株) LiNew (リニュー) との協定 (芦北町)



新たに整備した芦北サテライトオフィス田浦 (芦北町)

(5) 地域共生型再エネ施設の導入推進

「地域共生型再エネ施設」の導入に向けて、陸上風力発電及び地上設置型太陽光発電について、自然環境・景観・防災面に配慮したゾーニング図を作成



陸上風力ゾーニングに係る地域懇談会



陸上風力発電施設のゾーニング図案 (球磨地域)

(6) 雇用の維持・確保及び離職者等の就労支援

- ・ワンストップ就労相談窓口を設置 (R4.7月)
- ・同窓口において、求職者・企業双方に対して就職・採用活動を支援 (**就職決定数が前年比140%と大きく増加**)



ワンストップ就労相談窓口除幕式 (人吉市)



就労支援員による高校生の就職支援のための出前講座の様子

〈令和5年度末の到達イメージとその実現に向けた重点取り組み〉

〈到達イメージ〉

再建を目指す全ての事業者の事業再開

〈実現に向けた重点取り組み〉

(1) なりわい再建支援補助金による復旧支援

- ・ 再建を目指す全ての被災事業者の事業再開まで支援を継続

(2) 被災した商店街の復旧支援

- ・ 仮設商店街の設置を延長し、維持経費への支援を継続するとともに、仮設商店街のにぎわい回復に向けたイベント開催等の取り組みを支援



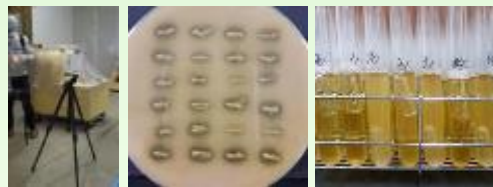
モソカタウンひとよし駅前



さかもと復興商店街

(3) 醸造食品関連企業の商品開発等の支援

- ・ 施設内の微生物モニタリング等を通じ、製造施設の衛生環境復旧支援を継続
- ・ 醸造場ごとの蔵付き微生物を凍結保存し、災害に強い製品づくりと品質維持の体制構築を支援。
- ・ 分離・収集した蔵付き微生物から選抜した優良菌株を活用した新商品開発支援(味噌・醤油や焼酎)



施設内浮遊菌の検査(左)及び分離した蔵付きの乳酸菌(中央)と酵母(右)の特性評価

流域全体をけん引する新たな産業の創出

(4) 流域への企業・オフィス誘致等による新たな産業の創出

- ・ サテライトオフィスの設置等による産業の創出及び企業立地促進補助金「球磨川流域復興枠」による企業誘致を継続
- ・ 令和4年度に設置された球磨地域産業振興連絡会議を軸として、全庁的な支援体制及び市町村との連携を強化し、新たな産業創出や雇用確保対策に取り組む。



< 発災から3年の取組みと成果 >

復旧対象	進捗状況
営農用機械・施設	3,726/3,726件 (全件完了)
林・水産施設	7/7件 (全件完了)
農林業者による 応急復旧・自力復旧	714/714件 (全件完了)
農地・農業用施設、 林道の復旧工事 (県・市町村実施分)	829/1,289件 (64%完了) ※実施中:183箇所 未着手:277箇所

林道災害復旧事業による林道の復旧(相良村四浦西地区)



R4.10月撮影

県営災害復旧事業による農地復旧(芦北町宮浦地区)



R4.5月撮影

< 課題と対応状況 >

○復旧工事の不調・不落

- 建設関係団体との意見交換
- 市町村へ発注規模の見直しや、発注時期の平準化を指導

○被災市町村のマンパワー不足

- 6市町村に農業土木・林務の技術職員 延べ203名を応援派遣
(令和5年度は球磨村に農業土木職員1名、五木村に林務職員1名を派遣中)
- 農地農業用施設の災害復旧事業について、一部を県営で実施
- 市町村が実施する林道の災害復旧事業を県職員が支援

< 今後の展望 >

- ・被災市町村に対して、農業土木や林務の技術職員による**技術的支援を継続**して行う。
- ・農地・農業用施設、林道の復旧については、大規模に被災し県営で復旧を行っている箇所や他工事の完了後に着手可能となる箇所等を除き、**令和5年度末までに全件完了を目指す**。
- ・未着手箇所についても、国や市町村と連携して早期の復旧完了を目指す。

営農再開した農地
(芦北町宮浦地区)



R4.7月撮影

“緑の雇用”の創出に向けた森林資源のフル活用の取組み

<発災から3年の取組みと成果>

1 林業担い手の確保・育成

○くまもと林業大学校での就業者の確保

- ・R1～4年度までに**最先端技術を習得した卒業生73名が林業関係に就業。**(うち県南地域の就業者 26名)
- ・R5年度は**県南校に10名が入校(過去最多)**

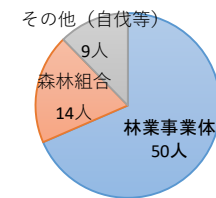
■現地実習



■苗木運搬ドローン



■卒業生の73名就業先



2 森林再生の支援強化

○再造林等に取り組む事業者への支援

- ・国産材の需要の高まりを受け皆伐が加速化傾向にある中、再造林や下刈りの事業量を拡大した事業体を支援。

【再造林面積】

- ・R2年度まで**750ha/年程度**
- ↓ **1.4倍増**
- ・R4年度**1,050ha/年(見込み)**



3 森林サービス産業の展開

○新たな「森林サービス産業」の創設

- ・地方創生推進交付金を活用し、2地域を支援。

【協議会の設立】

- 「くまむら森林サービス産業創出協議会」(R3)
- 「人吉・球磨森林サービス産業協議会」(R4)

プラン策定、ハード展開の準備に着手

<令和5年度の重点取組>

○くまもと林業大学校の充実

- ・R6年度以降の定数拡大に向けた受け入れ体制の整備や資格取得数の拡充。

【長期課程定数：R5:20名→R6:24名】

【資格取得数：長期課程15、短期課程R4:2→R5:6】

○就業環境改善

- ・造林・保育作業従事者の賃金を3%以上引き上げる場合に法定外福利厚生費用を支援。
- 【上限100千円/人】

○再造林等に取り組む事業者への支援を拡充

- ・R4年度の支援事業に加えて、林業未経験者の雇用による新たな林業事業体の創設等への支援を実施。

【再造林面積目標：1,250ha/年】

【未経験者採用数：60名】

■林業未経験者の雇用による植林

- ・皆伐が進む球磨地域における再造林推進のため、専門員による森林所有者や林業事業体への働きかけを強化。

【専門員の配置：2名】



イメージ

○「森林サービス産業」の事業化への支援

- ・球磨村の「森のサウナ」等の事業展開や企業連携を支援。
- ・人吉・球磨地域協議会におけるプラン策定や五木村振興計画に基づき、森林空間を教育や観光の場としての活用策の検討を支援。

球磨川流域市町村のゼロカーボンの取組み

- 6市町村が「2050年CO2排出実質ゼロ(ゼロカーボン)」を表明。
→八代市・人吉市・五木村・山江村・球磨村・あさぎり町
- 球磨村・あさぎり町は環境省の「脱炭素先行地域」に選定され、
2050年ゼロカーボンに向けて先行的に取り組んでいる。



球磨村 (第1回公募)

R4.4月選定

「脱炭素×創造的復興」によるゼロカーボンビレッジ創出事業

- 災害公営住宅や公共施設、林業加工施設等に太陽光発電を導入
- 小中学校のスクールバスや役場公用車をEV化



災害公営住宅のイメージ図

【参考】スクールバスの電動化によるCO2削減効果等の検証

- 熊本大学・球磨村・県が連携し、小中学校で電動スクールバスを運行する実証試験を実施 (R3～R5、環境省委託)



電動スクールバス

- CO2削減や災害時の非常電源としての効果等を検証中

あさぎり町 (第3回公募)

R5.4月選定

農業・畜産業の力をフル活用した農村地域脱炭素モデル

- 農家・畜産農家、牛舎屋等に太陽光発電を導入
- 耕作放棄地を活用したソーラーシェアリング、農業用水路等に小水力発電を導入
- 筍生産の竹林や林業由来の原料を活用した「バイオ炭入り牛糞堆肥」を製造し、有機農業を推進。併せて、CO2を貯留。

地域資源を生かした再生可能エネルギーの導入推進

球磨川流域における新規小水力発電所の開発可能性調査等

< 発災から3年の取組みと成果・課題 >

< 取組みと成果 >

- ① 令和3年度から開発可能性調査を行い、候補地点2か所(水上村1・山江村1)を抽出
- ② 令和4年度から砂防堰堤を対象とした調査を行い、候補地点2か所(山江村2)を抽出
- ③ 市町村等が取り組む小水力発電施設整備等への技術支援について関係者へ周知

< 課題 >

- 開発着手には、流量調査等により経済性の更なる精査が必要
- 発電した電気の活用方法の検討が必要（地域へ還元する方法等）

【砂防堰堤の活用例】



< 今後の展望 >

- ① 令和5～6年度に、有望な地点の流量調査を行い、更なる絞り込みにより令和6年度の計画地点選定を見込む
- ② 砂防堰堤2か所については、有識者等の意見も踏まえて、更なる検討を行う
- ③ 市町村や地域団体が取り組む小水力発電施設整備等への技術支援を実施(継続)

年度	取組内容
R5~ R6	流量調査 ⇒ 計画地点選定
R7~	計画地点の基本設計、測量等

電気事業からの収益の一部を地域に還元

復旧・復興プラン関連事業等への支援(一般会計への繰出金の充当)

令和3年度 事業名(充当額)	令和4年度 事業名(充当額)	令和5年度(予定) 事業名(充当予定額)
合計 351百万円	合計 329百万円	合計 429百万円
<ul style="list-style-type: none"> ● 高等学校等通学支援事業 (285百万円) ● 単県ダム堆砂排除事業 (51百万円) ● 球磨川流域ゼロカーボン先進地創出事業 (10百万円) ● 球磨川流域水産資源回復事業 (5百万円) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高等学校等通学支援事業 (209百万円) ● 単県ダム堆砂排除事業 (100百万円) ● 球磨川流域ゼロカーボン先進地創出事業 (20百万円) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高等学校等通学支援事業 (201百万円) ● 単県ダム堆砂排除事業 (200百万円) ● 球磨川流域ゼロカーボン先進地創出事業 (20百万円) ● 地域共生型再エネ導入推進事業 (8百万円)

高等学校等通学支援事業



単県ダム堆砂排除事業



ゼロカーボン先進地創出事業



企業局未利用財産を八代市坂本町の復興事業に活用

企業局未利用財産(3か所)を復興事業用地として市に無償譲渡

- 荒瀬ダム関連施設跡地のうち、復興事業で活用する旨八代市から申し出のあった3ヶ所を市へ譲渡予定
- ① **藤本発電所合宿舎跡地** 令和5年度中に譲渡
- ②-1 藤本発電所跡地、②-2 西鎌瀬浸水土地買収地 国の嵩上げ事業完了後、令和7年度に譲渡予定

八代市坂本町復興計画(抜粋)

(基本目標)

“産業・経済”
の再生

(主要な施策)

地域の産業を支える
“担い手”の確保

“社会基盤・防災”
の再生

災害に強い
地域づくりの推進



企業局未利用財産		活用案
藤本発電所合宿舎跡地 848㎡	R5譲渡 ➤	・移住・定住者や地域おこし協力隊等の 住宅用地
藤本発電所跡地 6,811㎡	R7譲渡 ➤	・移住・定住者の 住宅用地 ・ 公園用地 等
西鎌瀬浸水土地買収地 172㎡		・集落から主要道路までの 避難路

災害に強い
社会インフラ整備と
安心して学べる拠点づくり

国道219号をはじめとした道路・橋梁の創造的復興

<発災から4年の取組みと成果・課題>

◆集落アクセス

- ・令和3年7月までに166集落へのアクセス道路応急復旧完了。
- ・アクセス道路の本復旧工事は、950箇所のうち令和5年6月末までに869箇所契約締結し、内705箇所は工事完了。

◆国道219号および対岸道路(国の直轄代行)

- ・応急工事等により、令和3年7月末、国道219号は大野大橋から人吉方面の一般車両通行可能。
- ・国道219号は、引き続き本復旧工事を推進。
- ・対岸道路は、迂回路整備を推進。

◆橋梁(国の直轄代行)

- ・流失橋10橋のうち、全ての橋梁形式決定。
- ・完 成: 1橋(西瀬橋 R5.2.19完成)
- ・工事推進: 5橋(坂本橋、鎌瀬橋、大瀬橋、松本橋、沖鶴橋 R4.12.4着手)

<今後の展望(特に令和5年度末の到達イメージ)>

◆集落アクセス

- ・被災した全箇所の早期復旧を目指して、R5年度中に全箇所契約締結し、他工事の完了後に着手可能となる山間部の市町村道を除き、R5年度末までの完了を目指す。

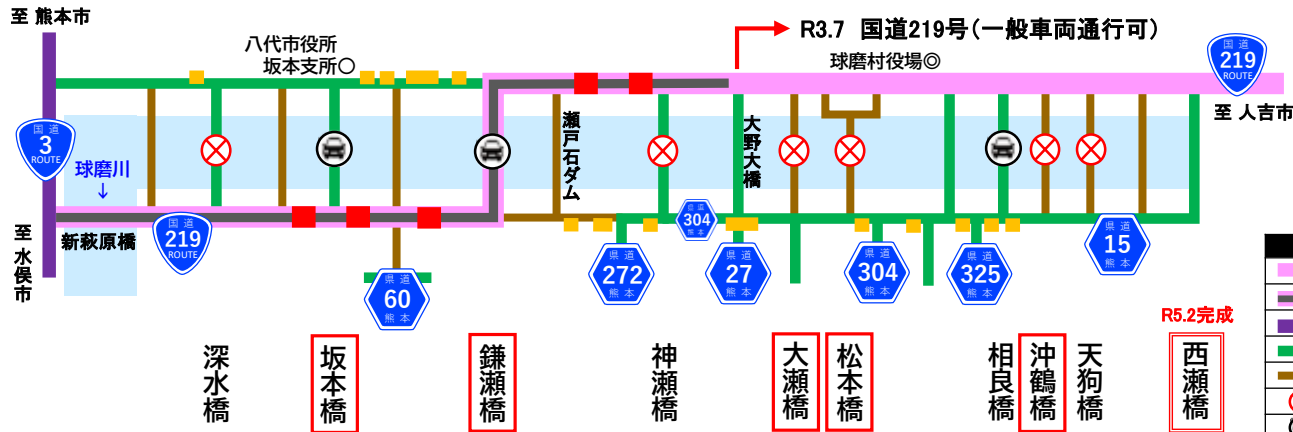
◆国道219号および対岸道路(国の直轄代行)

- ・道路復旧方針に基づき避難計画やまちづくり計画等を踏まえ、国・県・市町村が連携して道路護岸の復旧や嵩上げなど本復旧工事を推進。

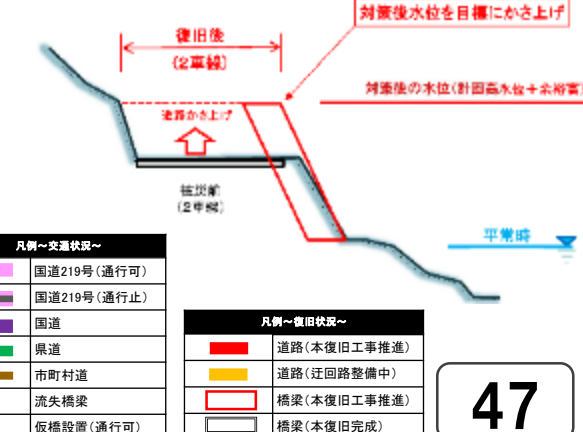
◆橋梁(国の直轄代行)

- ・流失橋10橋のうち、完成した西瀬橋を除く9橋の本復旧工事の推進。
- ・工事推進: 5橋(坂本橋、鎌瀬橋、大瀬橋、松本橋、沖鶴橋)
- ・着手予定: 4橋(深水橋、神瀬橋、相良橋、天狗橋)

■ 国道219号等 復旧状況

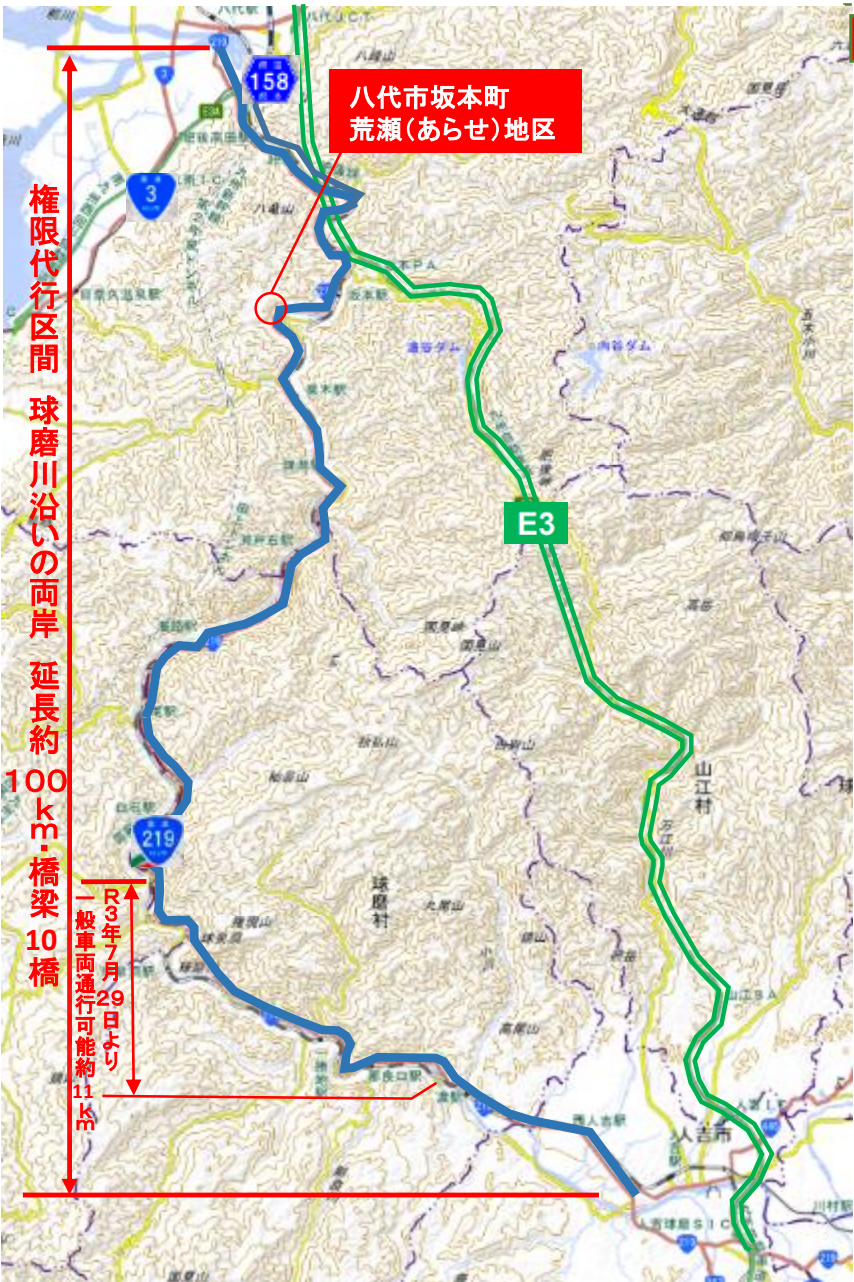


■ 国道219号等 復旧イメージ



国道219号をはじめとした道路・橋梁の創造的復興

●国道219号(八代市坂本町・荒瀬地区)道路復旧・かさ上げ状況



国道219号をはじめとした道路・橋梁の創造的復興

●国道219号(八代市・坂本町川嶽地区)道路復旧・かさ上げ状況



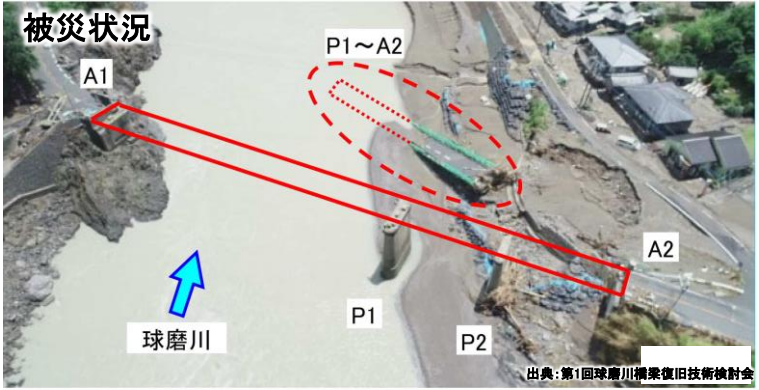
国道219号をはじめとした道路・橋梁の創造的復興

●国道219号(球磨村・伊高瀬地区) 道路復旧・かさ上げ状況



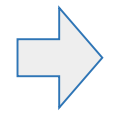
国道219号をはじめとした道路・橋梁の創造的復興

●国道219号 鎌瀬橋の復旧状況



国道219号をはじめとした道路・橋梁の創造的復興

● 県道坂本人吉線 坂本橋の復旧状況



出典: 第4回球磨川橋梁復旧技術検討会

< 発災から3年の取組みと成果・課題 >

- ◆ 令和3年11月28日
「肥後西村駅～湯前駅」間で部分運行開始



再開後、通学生で溢れる「肥後西村駅」

- ◆ 既存橋桁・橋梁の撤去完了

- ◆ 令和5年1月26日
球磨川第4橋梁建設工事に着手



球磨川第4橋梁建設工事起工式

< 今後の展望 (特に令和5年度末の到達イメージ) >

- ・ 令和7年度中の全線運転再開に向けた復旧工事の実施

球磨川第4橋梁

【左岸側】橋脚、橋桁設置

【右岸側】橋脚設置



「球磨川第4橋梁」建設工事状況



新しい「球磨川第4橋梁」(イメージ図)

- ・ くま川鉄道(株)・地元市町村と連携し、「くま川鉄道再生協議会」において、復旧後の持続可能性に関する協議を進める。

(会議予定)

7月7日(金) くま川鉄道再生協議会

- ・ 国、県、市町村による財政支援の実施

< 発災から3年の取組みと成果・課題 >

◆「肥薩線復旧を願う アピール集会」

(令和4年3月 人吉市)



◆鉄道復旧に向けた関係者間での協議実施

・「JR肥薩線検討会議」(令和4年3月設置、4回開催)

構成: 熊本県・国土交通省・九州地方整備局
・九州運輸局・JR九州

・「JR肥薩線再生協議会」(令和4年4月設置、4回開催)

構成: 熊本県・地元12市町村

◆財政支援拡充に係る 国への要望



総務省への要望(令和4年6月)

< 今後の展望(特に令和5年度末の到達イメージ) >

- ・「JR肥薩線検討会議」及び「JR肥薩線再生協議会」において、引き続き、鉄道復旧に向けた協議を進める。

6月22日(木) 第4回JR肥薩線再生協議会

6月28日(水) 第4回JR肥薩線検討会議



第4回 JR肥薩線再生協議会



第4回 JR肥薩線検討会議

- ・ 国、JR九州、地元市町村と連携のうえ、**持続可能な運行に向けた調査・検討事業を進め、JR肥薩線の利活用策と地域活性化の取組み方針をまとめる。**

◆代替交通の確保

①くま川鉄道、②JR肥薩線の運休により通学困難となった生徒への通学支援(①R2.7～、②R2.9～)

※R5年度も支援を継続

球磨川流域の魅力ある学校づくり

○地域資源とのコラボ推進事業(球磨工業高校)

- 超高齢化、人口減少が加速する人吉・球磨地域では、未曾有の災害からの早急な復旧に取り組み、誰もが安全・安心に住み続けられ、若者が「残り・集う」持続可能な地域の実現を目指している。
- そこで、球磨工業高校においては、災害の経験に学び、自然と共生する暮らしや**最先端の測量技術を用いた防災学習、日本古来の伝統建築技術等の専門教育の充実**を図り、**全国から若者が集う地方創生の核となる魅力ある学校づくり**を進めている(R3年度～実施)。

<発災から3年の取組みと成果・課題>

【取組内容】

- 球磨工業高校における建築技術者や技能者を講師とする特別授業

【成果】専門的な技術技能の習得に繋がっている
(約95%の生徒が知識を深めることができたと回答)

- 小学生向けハザードマップ制作と防災教室

【成果】取組を通じた生徒の主体性向上
小学校における防災教育の推進

【課題】実験装置や教材の更なる工夫改善



防災教室の様子(人吉西小学校5年生44人)

- 保育園児への建設業PR活動

【成果】園児との交流による学びの充実と建設業の魅力発信

【課題】園児が興味を持つような工夫改善

<今後の展望(特に令和5年度末の到達イメージ)>

地域への事業成果の発信を通じて、魅力ある学校づくりを推進

【重点取組】

- ・小学生向け防災教室やPR活動の継続及び課題改善
- ・土木の仕事をPRする小学生向けの「重機の絵本」づくり
- ・ドローン操作技術の習得
- ・建築技術者や技能者を講師とする特別授業や現場実習



- 成果発表会の実施(建設業魅力発見フェア)
- 本事業に係る取組内容や事業の成果を学校ホームページやSNS等のソーシャルメディア、新聞等を用いて全国に発信

球磨川流域の魅力ある学校づくり 児童生徒の心のケア/ 学校における防災教育・防災管理の充実

○県立高校の特色ある取組み(球磨中央高校)

<発災から3年の取組みと成果>

○球磨中央高校の生徒と山崎製パン(株)が共同で企画した、**人吉球磨地域の特産品である栗を使った「ランチパック」「マロンムースタルト」を商品化**(令和3年度 第1弾、令和4年度 第2弾を実施)、県庁では販売実習を実施

○当該商品は九州・山口県のスーパー・コンビニ等で広く販売

※7月豪雨の復興支援の趣旨から、商品1袋の売上につき1円を山崎製パン(株)が被災地等へ寄附



県庁での販売実習

○ICT教育の推進

<発災から3年の取組みと成果>

○**グーグル等との連携による各種研修や各学校の特色ある、取組への支援**

- ・教職員向け端末活用習熟度別研修の実施
- ・生徒向けキャリア研修(八代清流高校、芦北高校)等の実施
- ・YouTubeを活用した観光PRや学校紹介等のサイト作成支援(人吉高校、芦北高校)



グーグルによる端末活用研修



インテルと連携した生徒向け研修



人吉高校のYouTubeチャンネル

<今後の展望(令和5年度末の到達イメージ)>

各種研修や各学校の特色ある取組への継続した支援により、球磨川流域から全国へ発信し、世界とつながるICT教育の実現を目指す

○児童生徒の心のケア

<発災から3年の取組みと成果>

○発災直後から、SC(スクールカウンセラー)を派遣・配置し、相談体制の充実を図ってきた

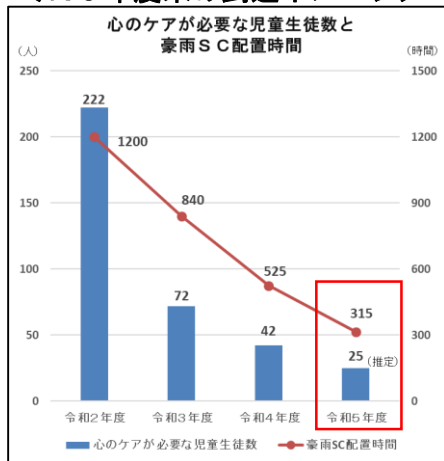
○R5年度からは豪雨対応SCの追加配置により、重点支援対象校への心のケアを実施



心のケアが必要な児童生徒の把握及び支援により、ケアを必要とする児童生徒が減少

(参考)豪雨重点支援対象校
八代・芦北・球磨教育事務所管内に
小学校：9校 中学校：5校

<R5年度末の到達イメージ>



豪雨対応SCの配置等による児童生徒の心のケアを継続

○学校における防災教育・防災管理の充実

<発災から3年の取組みと成果>

○R3年度から人吉球磨地域の県立学校を順次拠点校(2年間)に指定

⇒ **教職員・生徒の防災意識、対応能力が向上**

- (1年目)防災主任の資質向上、校内体制の整備、関係機関との連携強化
- (2年目)防災教育の公開授業、実践的な避難訓練

<R5年度の取組>

- 拠点校3校における公開授業・避難訓練を実施し、防災教育の充実を図る**
- 「緑の流域治水」の動画視聴等により、児童生徒に取組みを周知**



避難所運営をテーマとしたロールプレイ形式授業



「緑の流域治水」動画

(参考)拠点校
R3～R4年度
人吉高校、南稜高校
R4～R5年度
球磨工業高校
球磨中央高校
球磨支援学校

**地域の魅力の
向上と誇りの回復**

< 発災から3年の取組みと成果・課題 >

○観光施設等の再開支援



人吉温泉

復旧率 (R5. 6月末時点)

93.9%



ラフティング、球磨川くだり

令和5年3月に再開
(球磨川下りは現在一時休止中)



球泉洞

令和4年4月再開



文化財

被災した国・県指定等文化財の76.7%が復旧 (R5. 6月末時点)

○『人吉球磨豪雨被災地観光復興戦略』に基づく取組み

新たなツーリズムの創造

宿泊を促すコンテンツの充実

スマート観光の推進



▲ 球磨川での新たなアクティビティ導入実証



▲夜のイベント実施 (「夏目友人帳」影絵。R4. 10～実施中)



▲デジタルマップ作成



▲妖怪イベント (R5. 3)

< 今後の展望 (特に令和5年度末の到達イメージ) >

○『観光復興戦略』の方向性に沿った取組み

- ・球磨川での新たなアクティビティの本格導入
- ・コワーキングスペースを活用したワーケーションの推進



夏目友人帳 アニメ15周年



© 緑川ゆき・白泉社 「夏目友人帳」製作委員会



- ・周遊促進・利便性向上に繋がる企画の実施 (kumaラボの取組も活用)

○その他新たな動き



- ・『くまモンタウン人吉』 (くまモンランド化構想)

くまモンと地域の食や体験・宿泊サービスを掛け合わせ、新たな19のコンテンツを創出



・青井阿蘇神社国宝記念館完成予定 (R5年秋頃ランドオープン予定)

観光地としての復活 + 新たな顧客獲得

後押し

○豪雨被災地域応援キャンペーン

豪雨被災地を対象に宿泊旅行助成事業等を実施 (旅行助成期間: 7月7日～11月30日(8月11日～15日を除く))

○旅行助成事業の実施

くまもと再発見の旅

豪雨被災地送客促進事業



< 発災から3年の取組みと成果・課題 >

○球磨焼酎の魅力発信



球磨焼酎蔵ツーリズム協議会
への商品造成支援



屋台村と連携した周知イベント

○球磨焼酎の販路拡大



(大阪) 大型商業施設での熊本フェア (6施設122店舗が参加)



(国内外コンペティションにおける受賞の一部)



プラチナ
賞



Kura
Master2022



最高
金賞



TWSC2022



金賞



IWSC2022

< 今後の展望 (特に令和5年度末の到達イメージ) >

○球磨焼酎の魅力発信

- ・蔵元の歴史調査や密着取材を踏まえ、球磨焼酎の魅力を発信
- ・台湾始めインバウンドをターゲットとした蔵ツーリズムを推進



新たなファンの獲得



○球磨焼酎の販路拡大

- ・前年度に実施した大阪に加え、東京や博多においても、百貨店や飲食店等と連携したエリアジャックイベントを実施
- ・商品開発や、商談会・展示会・コンペティション参加を支援



取引先の拡大、付加価値創出・商品力向上



球磨川流域大学構想

球磨川流域を1つのキャンパスと位置づけ、球磨川流域の**魅力ある自然や恵みを生かした様々な「学び」「研究」「交流」の場を創出**することで、**若者が“残り” “集まる”魅力あふれる地域の実現**を目指す。

最先端治水研究

◆プランター型雨庭設置



・南陵高校生の協力のもと、肥後県行免田支店にプランター型雨庭を設置。今後、効果検証を行う予定。

◆流水型ダム模型実験



・国立研究開発法人土木研究所において、流水型ダムからの放流状況や減勢状況を把握するための大型水理模型実験を実施。

地域課題の解決

◆「ひごラボ」による地域課題の解決



・自治体職員等とともに、岡山県西粟倉村の視察を実施。(R5.5)
・ひごラボの取組みにより地域課題と課題解決の提案とのマッチングが31件成立(R5.5月末時点)

◆大学コンソーシアム熊本による政策アイデアコンテスト



・昨年度に引き続き、被災地域の課題解決をテーマの一つとして開催予定(R5.11)

“学び・交流”の場の創出

◆小中高生向けの情報発信



球磨中央高校での出前講座 (R5.5.31)



人吉第一中学校での出前講座 (R5.6.18)

・「緑の流域治水」の取組みについて、広く情報を発信するため、動画・パンフレット・立体地図を活用して、県内の小中高校向けの出前講座を実施。

◆「緑の流域治水」に関するシンポジウムの開催



・熊本県立大学が東京大学先端科学技術研究センターと連携してシンポジウムを開催(R5.6)
・「緑の流域治水プロジェクト」の活動成果、「地域気象データ」に係る講演及びパネルディスカッションを実施。

球磨川流域大学構想(熊本県立大学の取組①)

被災地域復興・再生支援事業(R2～)

< 発災から3年の取組みと成果・課題 >

◇無料オンライン講座

「球磨川流域圏バーチャル キャンパス」の開講(R3～)



環境共生学部柴田祐教授 講義風景

<実績>

R3(プレ実施)

- ・4講座
- ・207人受講

R4(本格実施)

- ・17講座
- ・557人受講

◇研究・活動支援(R2～R3)

熊本県立大学の様々な研究室が被災地域復興・再生に向けて活動を実施



R4.11.9～10 グランメッセ熊本
先進建設・防災・減災技術フェアin熊本での成果展示

< 今後の展望(特に令和5年度末の到達イメージ) >

◇無料オンライン講座

令和5年度は、鉄道や農業など新しい分野も取り入れ、内容をリニューアル。球磨川流域圏の文化・歴史・環境、そして流域各地域の個性にもスポットを当てた内容で講座を展開。本講座の学びを通じて、被災地域への興味と関心が高まり、持続的な復興支援の輪が広がる。

・配信期間:9月1日～令和6年2月29日(予定)

・講座数:13講座(予定)

・募集期間:7月31日まで 先着300人

* 別途人吉高校1年生約270人が受講予定

球磨川流域大学構想(熊本県立大学の取組②)

「緑の流域治水」に関する最先端の研究活動

< 発災から3年の取組みと成果・課題 >



研修・学習旅行の商品化に向けスタディツアーを試行(R4.10)



第2回センター会議を開催(R5.6)

- ・JST共創の場形成支援プログラム採択(R3.10)
- ・人吉市内に現地拠点を開設(R4.4)
- ・球磨村・神瀬地区でIoTプロジェクトが始動(R4.5~)
- ・南稜高校内に、同校の生徒と共に雨庭を整備(R4.10)
- ・スタディツアーを試行(R4.10)
- ・MS&AD社と連携し、相良村で湿地保全活動を開始(R4.11~)
- ・拠点研究の全体会議を開催(R4.12)
- ・くまラボと連携した「産業創生ワークショップ」開催(R5.2) など

< 今後の展望(特に令和5年度末の到達イメージ) >



学内に整備した実験棟と実験水路



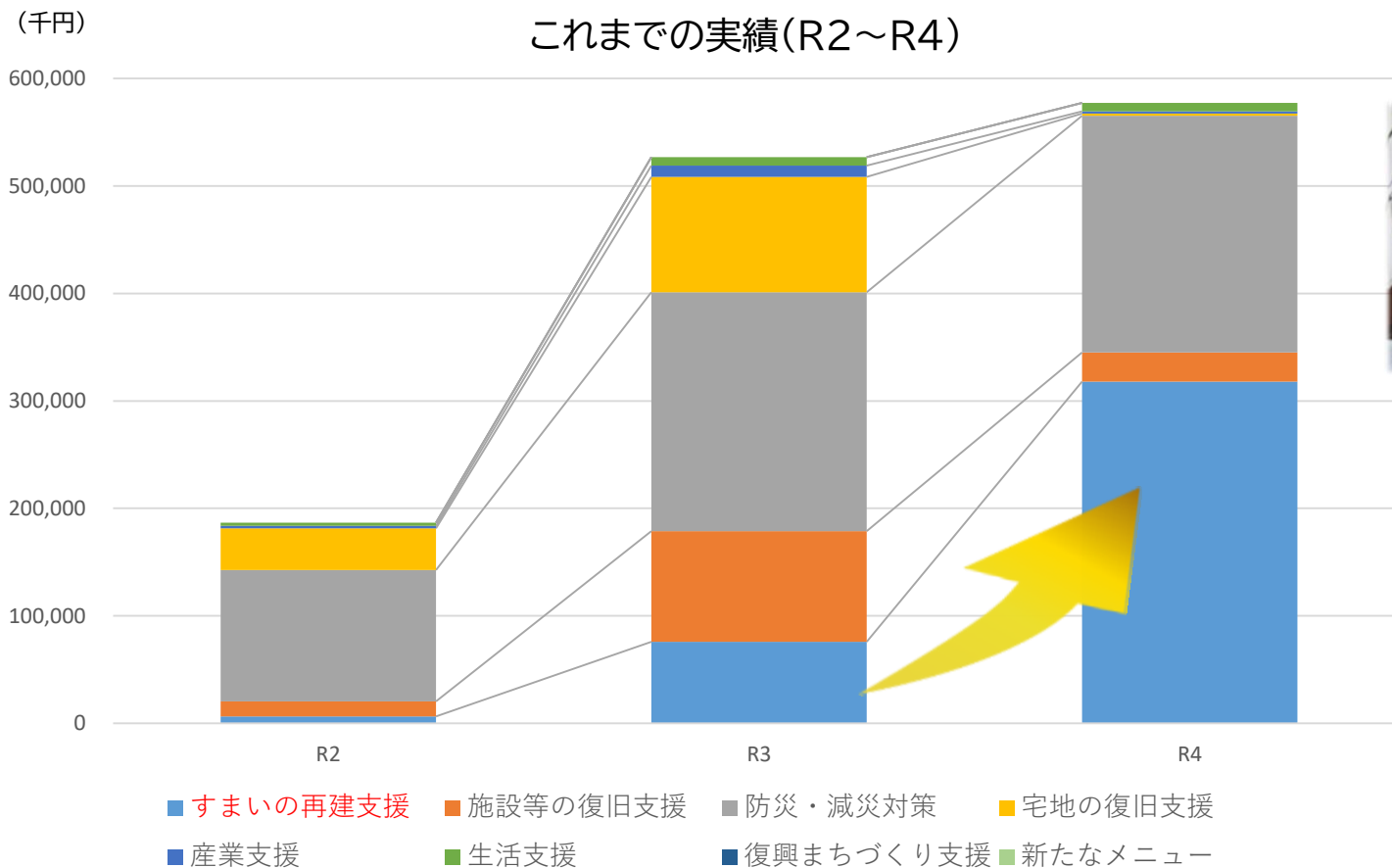
連続展示企画のオープニングイベント

- ・県立大学内に実験水路を整備、実証実験を開始
- ・スタディツアーを販売、ツアー客の受け入れ開始
- ・行政職員や市民向け啓発活動の展開(勉強会/連続展示企画)
- ・社会実装に向けた取組を促進(モデル河川の設定)
- ・球磨川支川への水位計設置を推進、データ収集を強化
- ・雨庭整備の推進(雨庭パートナーシップの立ち上げ) など

復旧・復興プランの
実現に向けて

球磨川流域復興基金を活用した市町村支援

- 球磨川流域における生活の再建並びに、市街地・集落の復興の推進等、安全・安心な地域づくりのため、**令和2年9月に球磨川流域復興基金交付金事業を創設し、市町村の取組みを強力に支援。**
- 特に、令和4年度に新たに追加した基金事業により、被災者のすまいの再建を大きく後押し。
- 今後も、市町村のニーズをお聴きしながら、きめ細かに市町村を支援していく。



すまいの安全確保支援事業
(山江村での交付式の様子)



木造仮設住宅利活用等支援

令和2年7月豪雨の後世への伝承

<発災から3年の取組みと成果>

災害対応の振り返り

・豪雨災害とその対応等について後世に残し、今後の防災等に役立てられるよう、写真や映像等の関連資料を取りまとめ、HPでの公開や書籍化を実施(R3.12)

デジタルアーカイブ

・デジタルアーカイブサイトでは、被害の実情や県・市町村、消防・警察・自衛隊などの活動をはじめ、「記録や検証」、「被災地の定点撮影」、「各首長のインタビュー」などの資料を収集・保存・公開（令和5年3月末現在：約8万件収集）



防災センター展示・学習室

・熊本地震や令和2年7月豪雨をはじめとした本県の過去の自然災害の経験や教訓、災害発生のメカニズム、防災の取組などについて学んでもらう**防災学習の拠点**として、**熊本県防災センター内に、展示・学習室を整備**(R5.5)



<今後の展望>

デジタルアーカイブ

・令和5年度末までに12万件を目標に資料収集を継続

防災センター展示・学習室

・防災センター1階展示・学習室において、**教訓や災害対応のノウハウ等の発信、防災研修**に取り組む

・特に自主防災組織や自治会など地域の防災活動リーダーとなる方の活用を推進し、**災害対応に優れた人材を育成**することで、地域力の向上を目指す



自主防災組織の研修の様子

広報等の取組み

・テレビ、ラジオ、県からのたより、SNS等を用いて防災情報を発信



県からのたより [令和5年6月号]

五木村の振興について

- 5月15日、新たな五木村の振興計画を国・県・五木村の三者で合意。
- 6月4日には、村民説明会を開催し、知事から五木村の振興にかける決意を伝えるとともに、新たな振興計画の内容を村民に説明。
- 県として、村民の声を受け止め、一緒に振興を進めていくため、派遣職員を2名増員するとともに、「熊本県五木村振興相談室」を6月19日から開設。
- その後、村が主催する地区別の行政座談会（6/19～）に国・県も出席し、村民の皆様と直接対話しながら、村の振興策の具体化に取り組んでいる。



<新たな振興計画の主な取組み・R5年度の予定>

頭地・高野地区のランドデザイン策定



宮園地区のまちづくり



地元協議会を設置し、調査・検討に着手

道の駅の施設改修、利便性・機能性向上



トイレ改修・リニューアルに向けた検討

新たな平場の造成と住まいの確保



国・県・村で調査・検討、協議実施

相良村の振興について

- 本年3月「第2回相良村振興推進会議」を開催し、**村の振興策に対する県の取組みを知事から吉松村長に手交。**



- 5月21日には、村民説明会において、**知事から村の振興に対する考えと県の取組みを説明し、様々な御意見等を聴取。**

今後、相良村の振興が目に見える形で実現できるよう、具体的な取組みを推進

<既に着手した主な取組み>

国道445号の道路改良・川辺川の河川整備



農地の基盤整備



川辺川魅力創造事業(イベント等実証事業)



企業誘致・雇用創出に向けた検討



広域本部・地域振興局からの報告

復旧・復興に向けた取り組み状況(県南広域本部①)

【道路・河川・山地等の整備】

【公共土木施設の災害復旧事業】(八代管内)

○公共土木施設の災害復旧事業は、**令和5年5月末時点で139箇所全てに着手し125箇所完了。**

○残る14箇所についても**令和5年度までに完了予定。**

令和5年6月末現在

項目	箇所	契約済	施工予定		
			うち完了	～R5年度	R6～7年度
河川	48	48 (100%)	42 (88%)	6 (100%)	-
砂防設備	36	36 (100%)	29 (81%)	7 (100%)	-
道路	46	46 (100%)	45 (98%)	1 (100%)	-
港湾	9	9 (100%)	9 (100%)	-	-
合計	139	139 (100%)	125 (90%)	14 (100%)	-



二見川(河川災害復旧事業)

【山地及び保安林の災害復旧事業】(八代管内)

○山地及び保安林(危険木除去)の災害復旧事業は、**令和5年5月末時点で45箇所に着手し32箇所完了。**

○治山工事は残り45箇所(うち繰越13箇所)を**令和7年度までに計画的に実施し**、保安林改良は残り2箇所を令和5年度までに完了予定。

令和5年6月末現在

項目	箇所	契約済	施工予定		
			うち完了	～R5年度	R6～7年度
治山工事	73	41 (56.2%)	28 (38.4%)	25 (72.6%)	20 (100.0%)
保安林改良	6	4 (66.7%)	4 (66.7%)	2 (100.0%)	-
合計	79	45 (57.0%)	32 (40.5%)	27 (74.7%)	20 (100.0%)



治山工事による荒廃溪流復旧状況(坂本町百済来下)

復旧・復興に向けた取り組み状況(県南広域本部②)

【すまい・コミュニティの創造】

◆すまいの創造

- 八代市の仮設住宅には令和5年6月末時点で、建設型に10世帯(17名)、賃貸型に18世帯(40名)の計28世帯(57名)が入居している。
- 令和5年4月に坂本町で初となる災害公営住宅が**合志野地区に完成**。現在、他の地区でも整備が進められている。
 - ・中津道地区(令和5年7月入居予定)
 - ・藤本・大門地区(令和5年10月入居予定)

◆コミュニティの創造

- 地域住民が中心となった**「坂本ふるさとまつり」**が**3年ぶりに開催**され、大きな盛り上がりを見せた。
 - ・日時: 令和4年11月13日(日)
 - ・場所: 広域交流センターさかもと館・さかもと復興商店街
- 令和5年度は坂本町で地元地域団体が主催するマルシェが予定されている。(夢チャレ補助金で支援)



▲合志野地区災害公営住宅
令和5年4月入居開始(2棟4戸)



▲坂本ふるさとまつり(令和4年11月開催)

復旧・復興に向けた取組み状況(県南広域本部③)

【なりわいの創造】

◆夢チャレ補助金を活用した支援

○令和4年度は、**坂本町の地元の地域団体が実施する肥薩線の写真展**や、坂本の魅力と被災状況を伝えるモニターツアーといった**3事業を支援**

○令和5年度も地元の地域団体の取組みを引き続き支援する予定

◆広域的な観光の取組

○令和4年度は、**球磨川流域市町村を含む県南15市町村と一体**となった県南の魅力を発信

・インフルエンサーのSNSを活用した県南の観光情報を発信

・「SnowPeak Eatアミュプラザくまもと」と連携し、県南食材を使用した期間限定メニューを開発・販売するフェア開催

○令和5年度も15市町村と一体となった観光振興に係る取組みを引き続き実施する予定



▲肥薩線の写真展の様子
・八代市役所
・モゾカステーション(人吉市)等で開催



▲坂本町でのモニターツアーの様子
・のべ26名が参加



▲インフルエンサー2名を招請。
リーチ総数60万件を記録するなど、大きな反響があった。

▼八代市の鏡オイスター、球磨村の一勝地赤豚、芦北町のデコポンをメインに使用した期間限定のメニュー



復旧・復興に向けた取り組み状況(芦北地域振興局①)

1 道路・河川・農地等の整備

(1)災害復旧関係

【令和4年度まで】

(単位:百万円)

区分	計画		契約済(未完)		完了		契約率 (箇所ベース)
	箇所	金額	箇所	金額	箇所	金額	
道路、河川、砂防	349	8,634	121	2,152	223	6,148	99% (残5件)
農地、農業施設	19	1,163	4	870	15	293	100%
治山(国直轄)	36	2,874	3	153	33	2,721	100%

【令和5年度】

- ・道路等の未契約分(5件)は年度内完了を目指す
- ・農地等の契約済分(4件)のうち3件は9月完了予定
- ・4年度中に完了した芦北町宮浦地区では、被災農地の全てで6月に営農再開



被災直後



土砂災害復旧及びほ場整備(芦北町宮浦地区)

復旧・復興に向けた取り組み状況(芦北地域振興局②)

1 道路・河川・農地等の整備

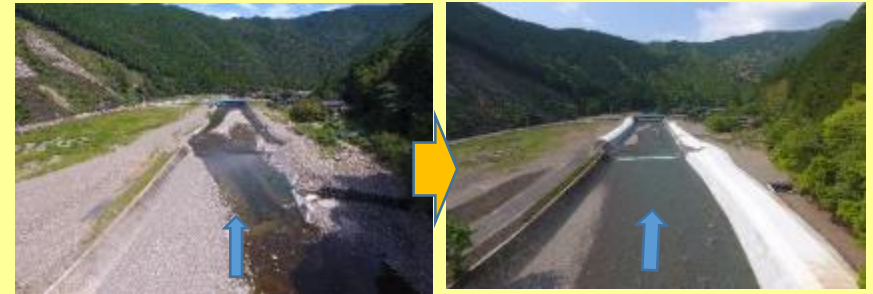
(2)改良復旧関係(創造的復興の推進)

○再度災害防止を図るため、堤防整備や河川拡幅等の改良復旧を実施中

- ・ 佐敷川水系：R5までに町中心（下流）部の堤防整備等を終え、R6完了を目指す
- ・ 吉尾川（球磨川支川）：R5事業完了予定



佐敷川改良復旧工事



吉尾川河川等災害関連事業

○収益性向上を図るため、農地の大区画化等を推進

- ・ 芦北東部地区（吉尾、大仁田、白木）
：R6事業着手見込
事業計画地内で加工用ばれいしょの
実証栽培を実施中（(株)湖池屋向け）
機械化による作業の省力化等により、
産地化に向けた取り組みを加速

イメージ



ばれいしょ実証ま（芦北町花岡）

湖池屋九州阿蘇工場（益城町）

2 住まいの再建

災害公営住宅

芦北町佐敷地区・湯浦地区に町有林を活用した災害公営住宅（2カ所計21戸）を整備。令和5年9月～10月入居開始予定



佐敷地区災害公営住宅



居住者交流スペース(佐敷地区)

長期避難世帯認定（解除）状況

津奈木町：3地区 9世帯 → 全て解除済

芦北町：9地区40世帯 → 6地区27世帯が解除済
（1地区を除き、本年中に工事完了予定）



地すべり対策工事(津奈木町福浦)R5.3完了 → R5.4.11付解除

復旧・復興に向けた取り組み状況(芦北地域振興局④)

3 地域の振興

地域づくり夢チャレンジ事業による支援等

①アママ場再生の取り組み

- ・芦北高校による「アママ場づくり」の取り組み(平成14年～)
- ・さかなクン(みなまた・あしきたギョギョ大使)と共に、豪雨災害による被害から再生する取り組みを発信(2月頃)



アママ場の再生活動



さかなクン「ギョギョ大使就任」

②復旧・復興状況の全国発信

- ・芦北町による、町の復興状況のパネル展示(9月頃)
- ・NHK全国放送公開番組「民謡魂ふるさとの唄」の公開収録(R6. 1. 21)



公開収録会場「芦北町民総合センター(しろやますか이드ーム)」

③地域素材を活かしたコンテンツ開発

- ・津奈木町による、スローフード(地元根付いた食べ物)を基軸とした新商品開発(3商品程度)
- ・フットパスの新コース策定、モニターツアーの実施(12月頃)



カット青パイヤ



フットパスツアー

④豪雨災害復興祈念イベント

- ・「芦北復興祭」(11月)や「あしきた町観光祭り」(12月頃)を開催
- ・芦北大橋のライトアップや花火、サテライトオフィス入居企業等による出店他



芦北町復興祭



あしきた町観光祭り

令和4年度の様子

復旧・復興に向けた取り組み状況(球磨地域振興局①)

【雇用確保の推進】

地域内での人材不足への対応策として、昨年7月に開設した「ワンストップ就労相談窓口」では相談員を増員し、事業者の求人や求職者への相談に対応。

「球磨地域産業振興連絡会議」で民間・行政連携し人材確保にかかる情報共有や意見交換を実施。

昨年度に続き、事業所向けセミナーや求人誌作成の作成を実施するとともに、県南3局合同での就職相談・マッチング会開催を予定。本庁とも連携して雇用施策を強化。

管内主要企業の人材確保状況を把握するため、個別訪問ヒアリングとアンケートを実施。



「ワンストップ就労相談窓口開設(R4.7)」

「人吉球磨管内事業所の人材確保等に関するアンケート調査」(R5.3)

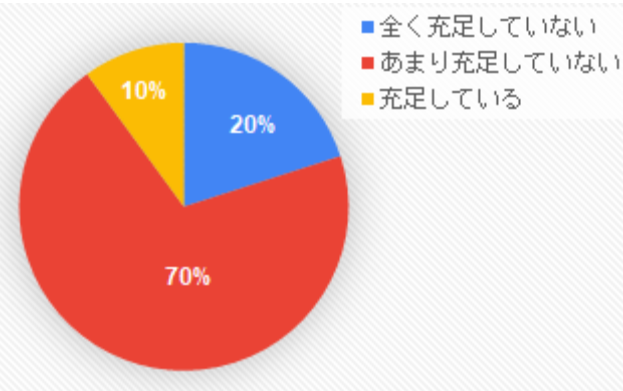
対象:人吉商工会議所(100)、管内9商工会(977)、人吉温泉観光協会(203)、人吉球磨地域産業振興協議会(23)、球磨焼酎酒造組合(27)の会員企業等

回答 69社(事業所) うち10社以上回答業種
製造業14社、卸売・小売業13社、建設業10社、
宿泊・飲食サービス業10社

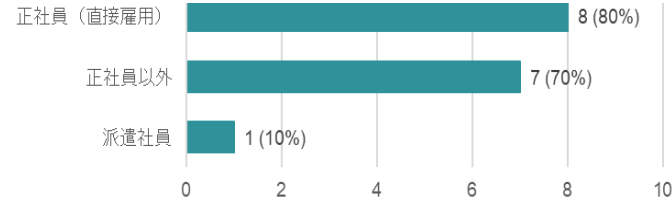
復旧・復興に向けた取り組み状況(球磨地域振興局②)

宿泊・サービス業 (回答10社(事業所))

○人材の充足状況



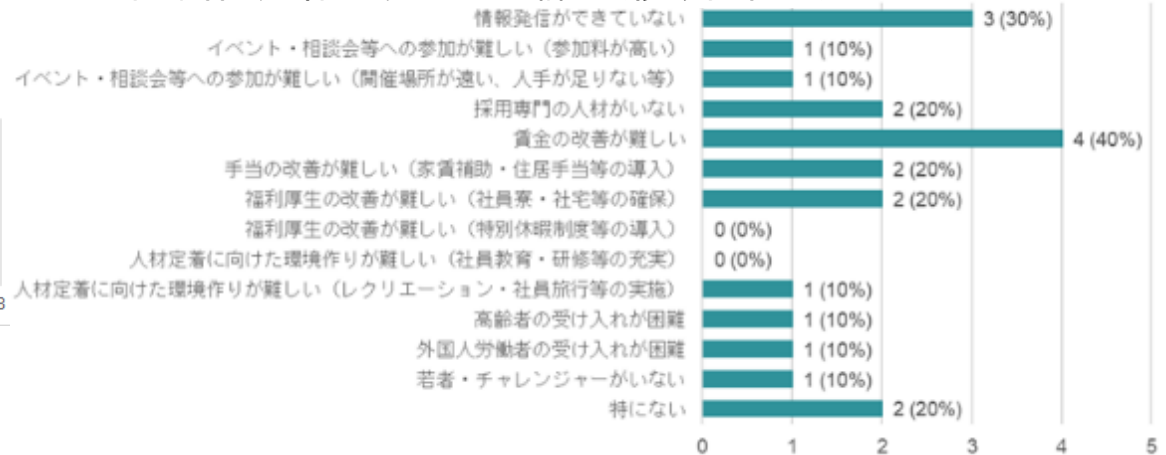
○雇用形態



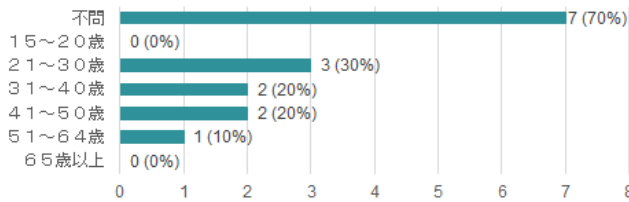
○人材の属性



○人材確保・定着にあたっての課題(複数回答可)



○求める年齢層



「人吉球磨管内事業所の人材確保等に関するアンケート調査」から抜粋

復旧・復興に向けた取り組み状況(球磨地域振興局③)

【被災地に元気を！「復興ひまわりプロジェクト」】

まちが復興に向けて歩いていく姿をみなさまにお届けするため、青井地区の土地区画整理事業の区域で、宅地造成等の工事着工までの期間、先行して取得した用地を活用し、次世代を担う子どもたちとともに、県・市共同で「ひまわり」を植える「復興ひまわりプロジェクト」に取り組めます。

第1弾として、認定こども園青井幼稚園とひまわり保育園の園児が約300㎡にヒマワリの種500粒を蒔きました。黄色の花々が地域を元気づけてくれることを期待しています。



青井被災市街地復興土地区画整理事業区域



「(R5.4) 復興ひまわりプロジェクト」